

令和7年 低層住宅の 労働災害発生状況報告書

令和8年 9月

一般社団法人住宅生産団体連合会

はじめに

（一社）住宅生産団体連合会の構成団体の会員企業 159 社（昨年比+9 社）から、労働災害データ及び関係資料をご提供いただき、令和 7 年の低層住宅の労働災害発生状況を把握することが出来ました。ここにご協力を賜りました関係各位に、深く感謝を申し上げます。

厚生労働省より「令和 7 年における労働災害発生状況（確定）」が公表され、それによりますと全労働災害による死亡者数は 700 人（前年比▲46 人）となりました。また建設業においては、214 人（前年 232 人）で、前年比 18 人減となり 31.1%から 30.6%と減少しました。そして、4 日以上之死傷災害に関しては、13,437 人で、前年比 412 人減（▲3.0%）と大幅減となっています。業種別、事故の型別死亡災害発生状況では、建設業の「墜落・転落」災害は、昨年 77 人から 91 人と増加となり、いまだに尊い命が亡くなっています。さて、ご協力いただいたアンケート調査の結果、（一社）住宅生産団体連合会の構成団体の会員企業の令和 7 年の労働災害発生件数は 272 件（前年比 22 件減）となりました。これは昨年比で回答社数が増えたことを踏まえると、改善の傾向が推察されます。また、労働災害発生件数（1000 棟当たり）を見ると、全体として前年比 28%の減少となり、相対的な災害発生率も減少しています。また、死亡災害は 3 件（前年 3 件で増減なし）となりました。これをゼロとするべく、より効果的な取組みをお願い致します。災害の型別発生状況では、重篤化する「墜転落」によるものが、依然として発生するなか、脚立・足場・ハシゴからの墜落災害が多数を占めていることから危険予知活動が、重要と思われます。また業界全体で増加する高齢な技能者・外国人労働者に配慮した職場づくりが、急務と考えられます。住宅建築における主力職種である「大工」の高年齢化も深刻な状況ですが、災害を減少させるため、高齢技能者に対し「高年齢者の労働災害防止のための指針」を踏まえたきめ細やかな取組みが必要です。当連合会では、「災害ゼロ」「危険ゼロ」「安全先取り」の現場の実現を目指して、昨年に引き続き職場・現場での働き方を見直し、DX（デジタルトランスフォーメーション）活用推進による生産性の向上を図る活動や、現場環境改善や熱中症対策等の会員企業における好事例集の水平展開などを行い、関係部門と連携して建設業の働き方改革を推進して参ります。関係団体ならびに会員各位の一層のご理解とご協力を賜ります様お願い申し上げます。

令和 8 年 9 月

一般社団法人 住宅生産団体連合会 工事CS・安全委員会

1. 労働災害発生状況の調査について

(一社)住宅生産団体連合会の団体会員である下表団体所属の企業会員に対して、休業4日以上の労働災害発生状況について、アンケート調査を実施した(『令和7年低層住宅の労働災害発生状況報告書』28～30頁参照)。令和7年のアンケート報告企業総数は159社であった。過去8年間(平成30～令和7年)を含めた団体別報告企業数推移は表1-1の通りであり、昨年から9社増加した。

表1-1 アンケート報告企業数推移

所属団体	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
プレハブ建築協会	14社	14社	15社	15社	14社	14社	13社	10社
日本ツーバイフォー建築協会	104社	104社	115社	96社	97社	83社	65社	59社
日本木造住宅産業協会	98社	135社	105社	86社	62社	78社	42社	34社
全国住宅産業協会	56社	30社	42社	32社	22社	17社	24社	19社
全国中小建築工事業団体連合会	32社	0社	—	—	—	—	—	—
JBN全国工務店協会	—	3社	5社	46社	49社	5社	4社	36社
輸入住宅産業協会	7社	3社	2社	2社	2社	4社	2社	1社
計	311社	289社	284社	277社	246社	201社	150社	159社

団体別、規模別、新築工事、増改築・リフォーム工事、解体工事別の労働災害発生件数は、表1-2の通りとなる。

表1-2 アンケート全体 団体別、規模別の労働災害発生件数(休業日数4日以上)

休業日数4日以上 の労災件数		令和7年																			無 記 入
		全体									新築工事			増改築・ リフォーム工事			解体工事				
		回答 社数	完工 棟数	割合 (%)	内訳			災害 件数	割合 (%)	1000 棟当たり 災害 件数	災害 件数	割合 (%)	1000 棟当たり 災害 件数	災害 件数	割合 (%)	1000 棟当たり 災害 件数	災害 件数	割合 (%)	1000 棟当たり 災害 件数		
					新築 件数	増改築・ リフォーム工 事件数	解体 工事														
		159	394,103	100.0	95,146	292,412	6,545	272	100.0	0.69	247	100.0	2.60	19	100.0	0.06	3	100.0	0.46	3	
団 体 別	プレハブ建築協会	10	284,317	72.1	40,479	240,398	3,440	136	50.0	0.48	117	47.4	2.89	16	84.2	0.07	2	66.7	0.58	1	
	日本ツーバイフォー建築協会	59	45,221	11.5	9,357	35,008	856	34	12.5	0.75	32	13.0	3.42	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	2	
	日本木造住宅産業協会	34	41,574	10.5	37,631	1,844	2,099	86	31.6	2.07	83	33.6	2.21	2	10.5	1.08	1	33.3	0.48	0	
	全国住宅産業協会	19	16,159	4.1	6,553	9,514	92	15	5.5	0.93	15	6.1	2.29	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
	JBN全国工務店協会	36	2,608	0.7	202	2,348	58	1	0.4	0.38	0	0.0	0.00	1	5.3	0.43	0	0.0	0.00	0	
	輸入住宅産業協会	1	4,224	1.1	924	3,300	0	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
規 模 別	3000棟以上／年	15	361,202	91.7	79,219	276,145	5,838	215	79.0	0.60	196	79.4	2.47	16	84.2	0.06	3	100.0	0.51	0	
	1000～2999棟／年	6	12,438	3.2	6,426	5,598	414	23	8.5	1.85	20	8.1	3.11	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	3	
	500～999棟／年	11	7,593	1.9	2,355	5,173	65	11	4.0	1.45	11	4.5	4.67	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
	100～499棟／年	39	10,317	2.6	6,024	4,170	123	22	8.1	2.13	20	8.1	3.32	2	10.5	0.48	0	0.0	0.00	0	
	50～99棟／年	22	1,503	0.4	672	792	39	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
	49棟以下／年	64	1,050	0.3	450	534	66	1	0.4	0.95	0	0.0	0.00	1	5.3	1.87	0	0.0	0.00	0	
	その他	2	0	0	0	0	0	0	0.0	－	0	0.0	－	0	0.0	－	0	0.0	－	0	
	不明	1	0	0	0	0	0	0	0.0	－	0	0.0	－	0	0.0	－	0	0.0	－	0	
工 法 別	木造在来軸組							87	32.0		80	32.4		5	26.3		2	66.7		0	
	ツーバイフォー							47	17.3		45	18.2		0	0.0		0	0.0		2	
	木質プレハブ							39	14.3		35	14.2		4	21.1		0	0.0		0	
	鉄骨在来							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
	鉄骨プレハブ							93	34.2		82	33.2		10	52.6		1	33.3		0	
	コンクリート在来							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
	コンクリートプレハブ							5	1.8		5	2.0		0	0.0		0	0.0		0	
	その他							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
不明							1	0.4		0	0.0		0	0.0		0	0.0		1		

※(全体の1000棟当たり労働災害件数)=(全体の労働災害件数)÷(新築棟数+増改築・リフォーム棟数+解体工事数)×1000
※(工事種別の1000棟当たり労働災害件数)=(各工事の労働災害件数)÷(各工事の棟数)×1000
※規模別の規模は、新築工事、増改築・リフォーム工事、解体工事の総和

平成18年調査より各団体の新築完工棟数上位会社（プレハブ建築協会3社、日本ツーバイフォー建築協会3社、日本木造住宅産業協会3社、全国住宅産業協会2社、全国中小建築工事業団体連合会2社（平成30年まで）、JBN2社（令和元年より）、輸入住宅産業協会2社、合計15社）の団体別、規模別、新築工事、増改築・リフォーム工事、解体工事別の労働災害発生件数の定点観測を行っている。
集計結果は、表1-3の通りとなる。

表1-3 定点観測（団体別、規模別の労働災害発生件数(休業日数4日以上）
令和7年

(令和7年) 休業日数4日以上の労災件数		令和7年																		無記入
		全体									新築工事			増改築・ リフォーム工事			解体工事			
		回答 社数	完工 棟数	割合 (%)	内訳			災害 件数	割合 (%)	1000 棟当 たり 災害 件数	災害 件数	割合 (%)	1000 棟当 たり 災害 件数	災害 件数	割合 (%)	1000 棟当 たり 災害 件数	災害 件数	割合 (%)	1000 棟当 たり 災害 件数	
新築 件数	増改築・ リフォーム 工事件数				解体 工事															
団体別	プレハブ建築協会	3	167,996	68.3	25,201	141,722	1,073	69	43.9	0.41	64	43.0	2.54	4	100.0	0.03	1	50.0	0.93	0
	日本ツーバイフォー建築協会	3	29,646	12.0	4,631	24,260	755	17	10.8	0.57	15	10.1	3.24	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	2
	日本木造住宅産業協会	3	31,673	12.9	29,642	0	2,031	58	36.9	1.83	57	38.3	1.92	0	0.0	0.00	1	50.0	0.49	0
	全国住宅産業協会	2	11,994	4.9	5,344	6,646	4	13	8.3	1.08	13	8.7	2.43	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0
	JBN全国工務店協会	2	505	0.2	3	501	1	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0
	輸入住宅産業協会	1	4,224	1.7	924	3,300	0	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0
規模別	3000棟以上／年	9	240,279	97.7	63,056	173,778	3,445	143	91.1	0.60	137	91.9	2.17	4	100.0	0.02	2	100.0	0.58	0
	1000～2999棟／年	2	4,858	2.0	2,433	2,011	414	13	8.3	2.68	11	7.4	4.52	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	2
	500～999棟／年	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0
	100～499棟／年	2	842	0.3	256	581	5	1	0.6	1.19	1	0.7	3.91	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0
	50～99棟／年	1	59	0.0	0	59	0	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0
	49棟以下／年	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-	0
工法別	木造在来軸組							55	35.0		53	35.6		0	0.0		2	100.0		0
	ツーバイフォー							30	19.1		28	18.8		0	0.0		0	0.0		2
	木質プレハブ							15	9.6		15	10.1		0	0.0		0	0.0		0
	鉄骨在来							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0
	鉄骨プレハブ							53	33.8		49	32.9		4	100.0		0	0.0		0
	コンクリート在来							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0
	コンクリートプレハブ							4	2.5		4	2.7		0	0.0		0	0.0		0
	その他							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0
不明							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	

令和6年

(令和6年) 休業日数4以上の労災件数		令和6年																			無記入
		全体									新築工事			増改築・ リフォーム工事			解体工事				
		回答 社数	完工 棟数	割合 (%)	内訳			災害 件数	割合 (%)	1000 棟当 たり 災害 件数	災害 件数	割合 (%)	1000 棟当 たり 災害 件数	災害 件数	割合 (%)	1000 棟当 たり 災害 件数	災害 件数	割合 (%)	1000棟 当たり 災害 件数		
新築 件数	増改築・ リフォーム 工事件数				解体 工事																
団体別		15	216,579	100.0	46,098	166,217	4,264	174	100.0	0.80	162	100.0	3.51	8	100.0	0.05	4	100.0	0.94	0	
	プレハブ建築協会	3	168,720	77.9	24,935	142,713	1,072	98	56.3	0.58	91	56.2	3.65	6	75.0	0.04	1	25.0	0.93	0	
	日本ツーバイフォー建築協会	3	27,197	12.6	4,878	21,243	1,076	20	11.5	0.74	16	9.9	3.28	2	25.0	0.09	2	50.0	1.86	0	
	日本木造住宅産業協会	3	16,530	7.6	14,424	0	2,106	51	29.3	3.09	50	30.9	3.47	0	0.0	0.00	1	25.0	0.47	0	
	全国住宅産業協会	2	1,266	0.6	905	361	0	1	0.6	0.79	1	0.6	1.10	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
	JBN全国工務店協会	2	227	0.1	17	200	10	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
	輸入住宅産業協会	2	2,639	1.2	939	1,700	0	4	2.3	1.52	4	2.5	4.26	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
規模別	3000棟以上/年	6	206,038	95.1	38,844	163,433	3,761	145	83.3	0.70	134	82.7	3.45	8	100.0	0.05	3	75.0	0.80	0	
	1000～2999棟/年	3	7,327	3.4	5,207	1,700	420	21	12.1	2.87	21	13.0	4.03	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
	500～999棟/年	4	2,987	1.4	2,030	884	73	8	4.6	2.68	7	4.3	3.45	0	0.0	0.00	1	25.0	13.70	0	
	100～499棟/年	1	164	0.1	9	150	5	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
	50～99棟/年	1	63	0.0	8	50	5	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
	49棟以下/年	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	0.0	0.00	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-	0	
工法別	木造在来軸組							54	31.0		53	32.7		0	0.0		1	25.0		0	
	ツーバイフォー							24	13.8		20	12.3		2	25.0		2	50.0		0	
	木質プレハブ							11	6.3		11	6.8		0	0.0		0	0.0		0	
	鉄骨在来							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
	鉄骨プレハブ							85	48.9		78	48.1		6	75.0		1	25.0		0	
	コンクリート在来							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
	コンクリートプレハブ							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
	その他							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	
不明							0	0.0		0	0.0		0	0.0		0	0.0		0		

2. 完工棟数と労働災害発生件数の推移

令和7年の調査概要は、調査企業数159社（前年より9社増加、前年比106%）、完工棟数（新築）95,146棟（前年比120%）、（増改築・リフォーム）292,412棟（前年比134%）、（解体）6,545棟（前年比93%）、労働災害件数は272件（前年より22件減少）となる。（表2-1参照）年々減少していた調査企業数は、令和7年に若干増加している。推移を見ていく上で各団体のより一層の協力が必要である。

労働災害発生件数（絶対数）（図2-1）を見ると、完工棟数の合計が89,672棟増加（前年比129%）したが、全体として22件減少（前年比93%）となった。内訳は新築工事で21件減少（前年比92%）、増改築・リフォーム工事で同件数（前年比100%）、解体工事で4件減少（前年比43%）となっている。また、労働災害発生件数（1000棟当たり）（図2-2）を見ると、全体として前年比71%で、内訳は新築工事で前年比77%、増改築・リフォーム工事で前年比67%、解体工事で前年比46%となり、相対的な災害発生率は減少の傾向が見られる。各工事の減少傾向を継続するために、それぞれの工事に見合った効果的な対策が引き続き必要である。

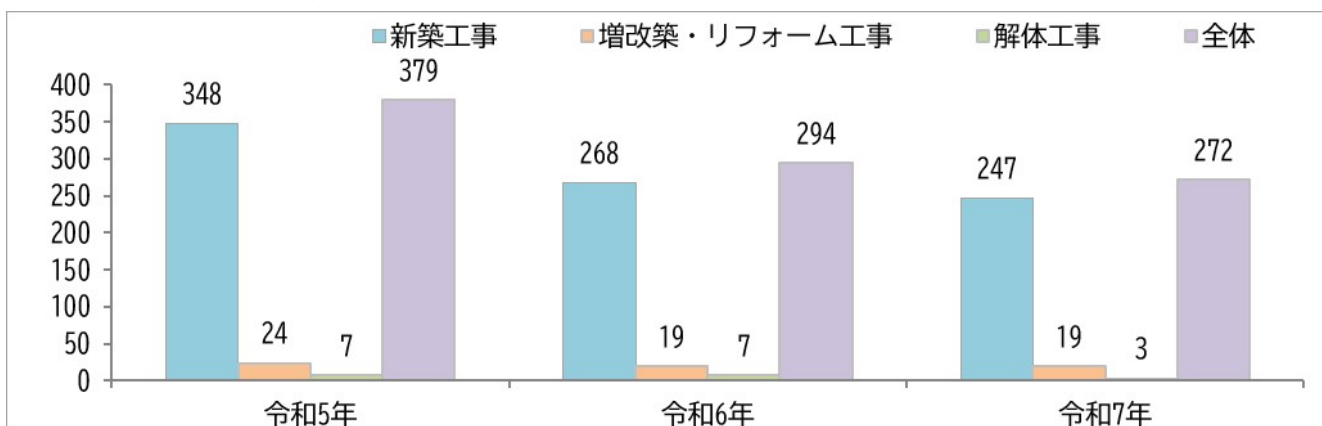
労働災害防止には、労働安全衛生関係法令の改正にも目を向け、法令を遵守した対策を実行すること、安全作業の定着には、リスクアセスメント、KY活動及び安全ミーティング等に積極的に取り組み、危険に対する認識、安全意識を関係者全員で高めることが重要である。また、日々進歩するデジタル技術を積極的に活用し、効果的な労働災害の未然防止対策及び安全・安心な現場環境の形成を推進していくことが求められる。

表2-1 調査企業数及び調査企業の完工棟数・労働災害件数推移

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
調査企業数	289社	284社	277社	246社	201社	150社	159社
完工棟数	新築	140,144	131,437	118,596	98,393	118,512	79,204
	増改築・リフォーム	355,026	250,085	285,409	331,319	295,566	218,192
	解体	9,402	8,774	11,628	9,927	9,093	7,035
災害件数	456	388	388	326	379	294	272

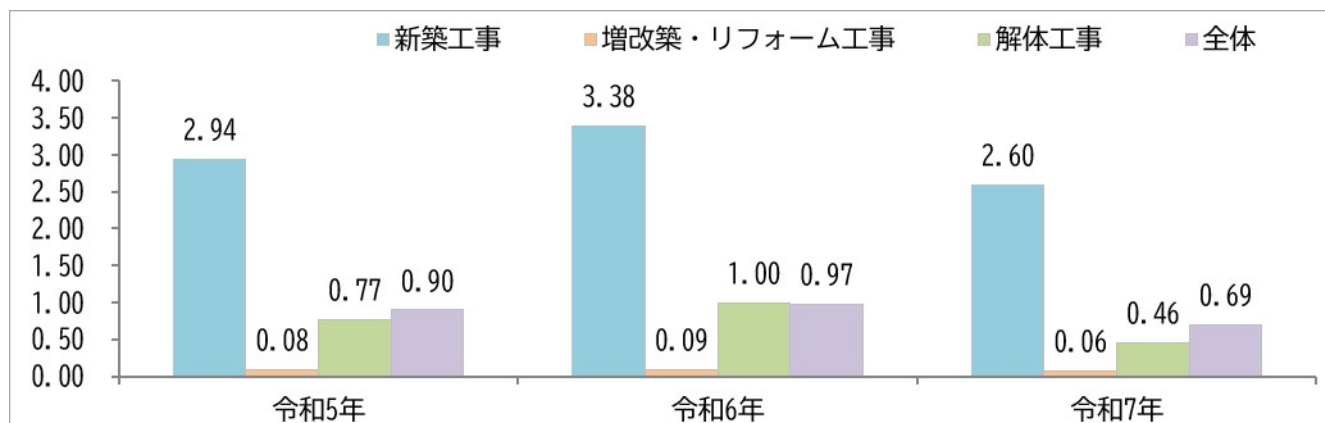
注）労働災害件数は休業4日以上災害で、一人親方、事業主等を含む。

図2-1 労働災害発生件数（絶対数）



※全体には工事種不明の労働災害発生件数を含む。工事種不明件数は令和5年が0件、令和6年が0件、令和7年が3件

図2-2 労働災害発生件数（1000棟当たり）



※（労働災害発生件数）÷（新築工事棟数+増改築・リフォーム工事棟数+解体工事棟数）×1000

労働災害発生状況を企業規模別に見るため、アンケート報告企業を年間完工棟数に応じて表 2-2 のように分類し、規模に応じた 1,000 棟あたりの規模別労働災害発生件数を図 2-3 に整理した。

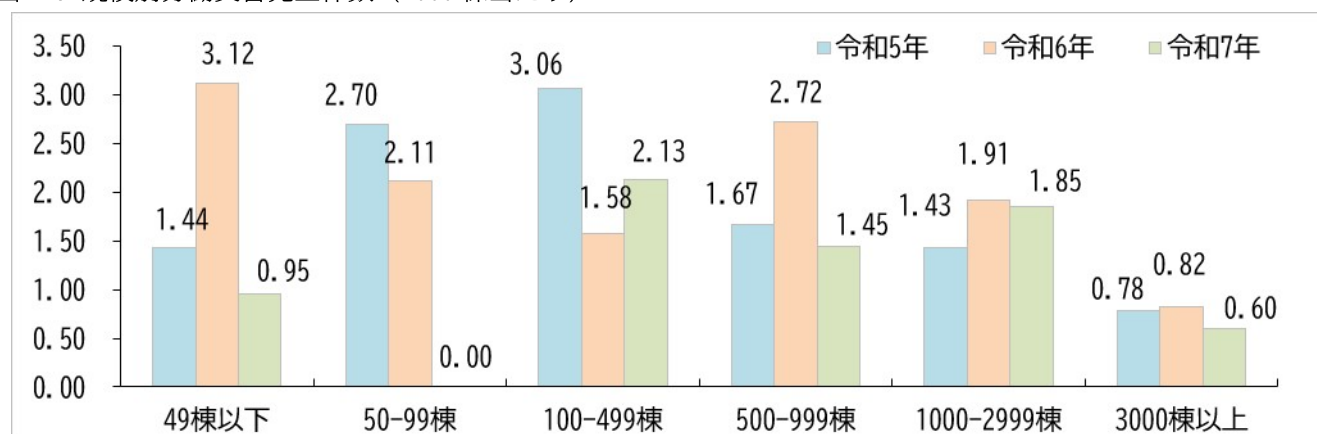
表 2-2 規模別企業数推移

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
年間完工3000棟以上	19社	25社	17社	18社	17社	19社	11社	15社
1000～2999棟	14社	9社	15社	11社	9社	11社	6社	6社
500～999	14社	20社	17社	24社	16社	14社	15社	11社
100～499	64社	68社	66社	59社	55社	48社	34社	39社
50～99	35社	39社	31社	30社	22社	16社	21社	22社
49棟以下	165社	128社	138社	135社	120社	85社	62社	64社
規模不明・その他	0社	0社	0社	0社	7社	8社	1社	2社
計	311社	289社	284社	277社	246社	201社	150社	159社

※年間完工棟数は、新築工事、増改築・リフォーム工事、解体工事の合計

完工棟数の多い『3,000 棟以上』、『1,000-2,999 棟』、『500 棟-999 棟』の上位 3 レンジで減少しており、その他レンジにおいては、『49 棟以下』は大幅に減少し、『50-99 棟』においては 0、『100-499 棟』は増加している。

図 2-3 規模別労働災害発生件数（1000 棟当たり）



※(各棟数エリアの労働災害発生件数) ÷ [各棟数エリアの(新築棟数+増改築・リフォーム棟数+解体工事数)] × 1000

当該調査における完工棟数の推移は表 2-3 のとおりとなる。完工棟数は、新築工事、増改築・リフォーム工事で増加、解体工事で減少している。完工棟数の各レンジでは、『3,000 棟以上』、『100～499 棟』、『50～99 棟』、『49 棟以下』では増加したが、それ以外のレンジでは減少している。『3,000 棟以上』の調査回答社数が 15 社で全体 159 社の 9%程度にもかかわらず、完工棟数は全体の 91.7%を占めている為、全体に対する影響は大きい。

労働災害発生件数は、『100-499 棟』のレンジで前年より 12 件の増加となり、それ以外のレンジでは合計 34 件の減少となっている。労働災害発生件数(絶対数)は全体で 272 件発生し、前年より 22 件の減少となり、前年比 7.5%減となった。全体の 1,000 棟当たりの労働災害件数を減らすうえでは、完工棟数が多いレンジ、及び、完工棟数が減少しているレンジの労働災害発生件数の推移が重要であり、全体に影響を与えることになる。

表 2-3 規模別完工棟数 及び 労働災害発生件数推移

	完工棟数						災害発生件数						
	令和5年	令和6年	令和7年				令和5年	令和6年	令和7年				
			新築工事	増改築・ リフォーム 工事	解体工事	合計			新築工事	増改築・ リフォーム 工事	解体工事	無記入	合計
年間完工3000棟以上	380,118	271,456	79,219	276,145	5,838	361,202	297	223	196	16	3	0	215
1000～2999棟	20,252	13,586	6,426	5,598	414	12,438	29	26	20	0	0	3	23
500～999	10,180	10,666	2,355	5,173	65	7,593	17	29	11	0	0	0	11
100～499	10,116	6,341	6,024	4,170	123	10,317	31	10	20	2	0	0	22
50～99	1,113	1,421	672	792	39	1,503	3	3	0	0	0	0	0
49棟以下	1,392	961	450	534	66	1,050	2	3	0	1	0	0	1
規模不明・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	423,171	304,431	95,146	292,412	6,545	394,103	379	294	247	19	3	3	272

※規模分けは、新築工事、増改築・リフォーム工事、解体工事の合計による。

図 2-4 規模別完工棟数比率

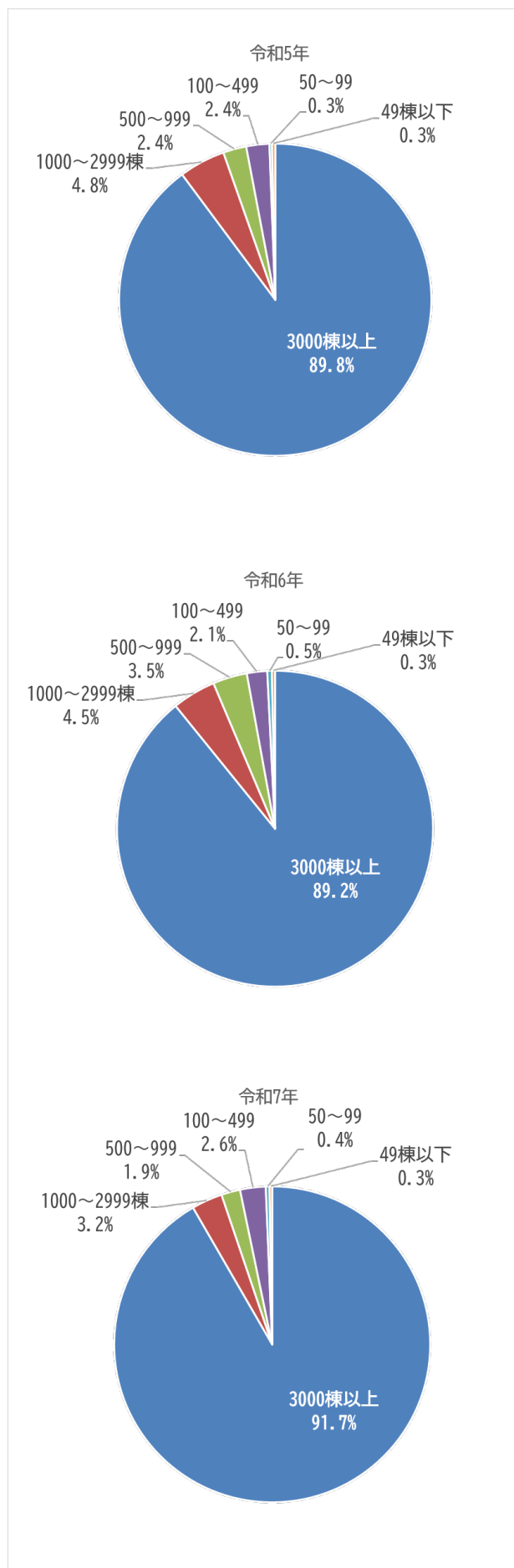
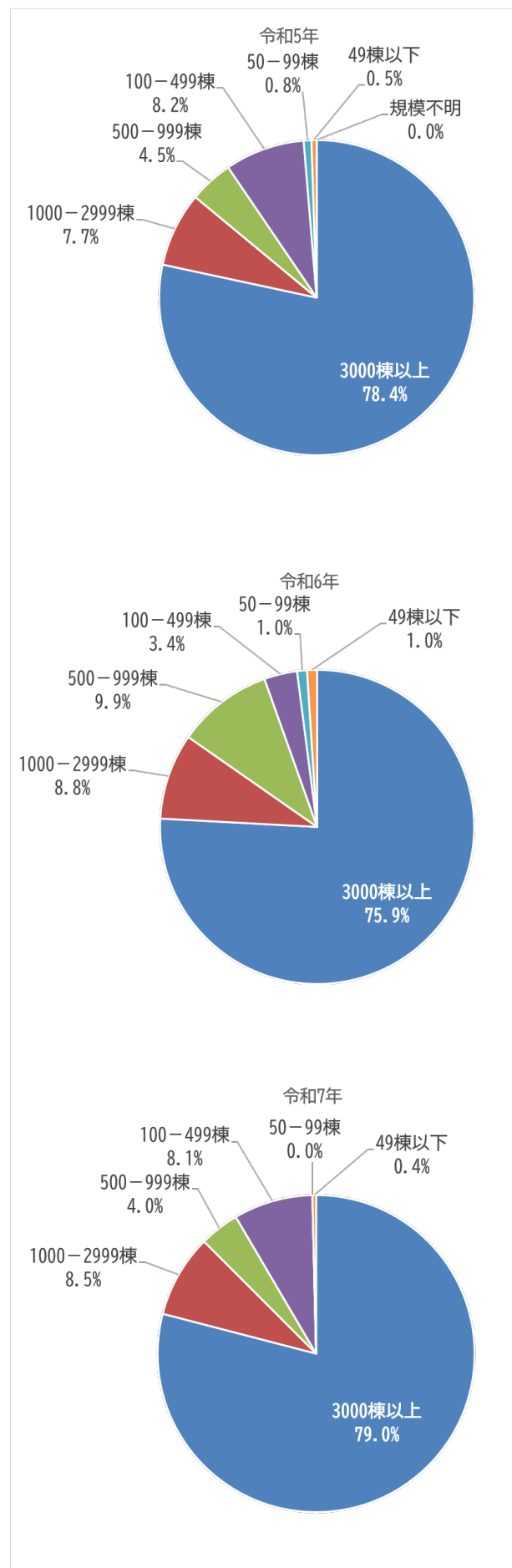


図 2-5 規模別労働災害発生率



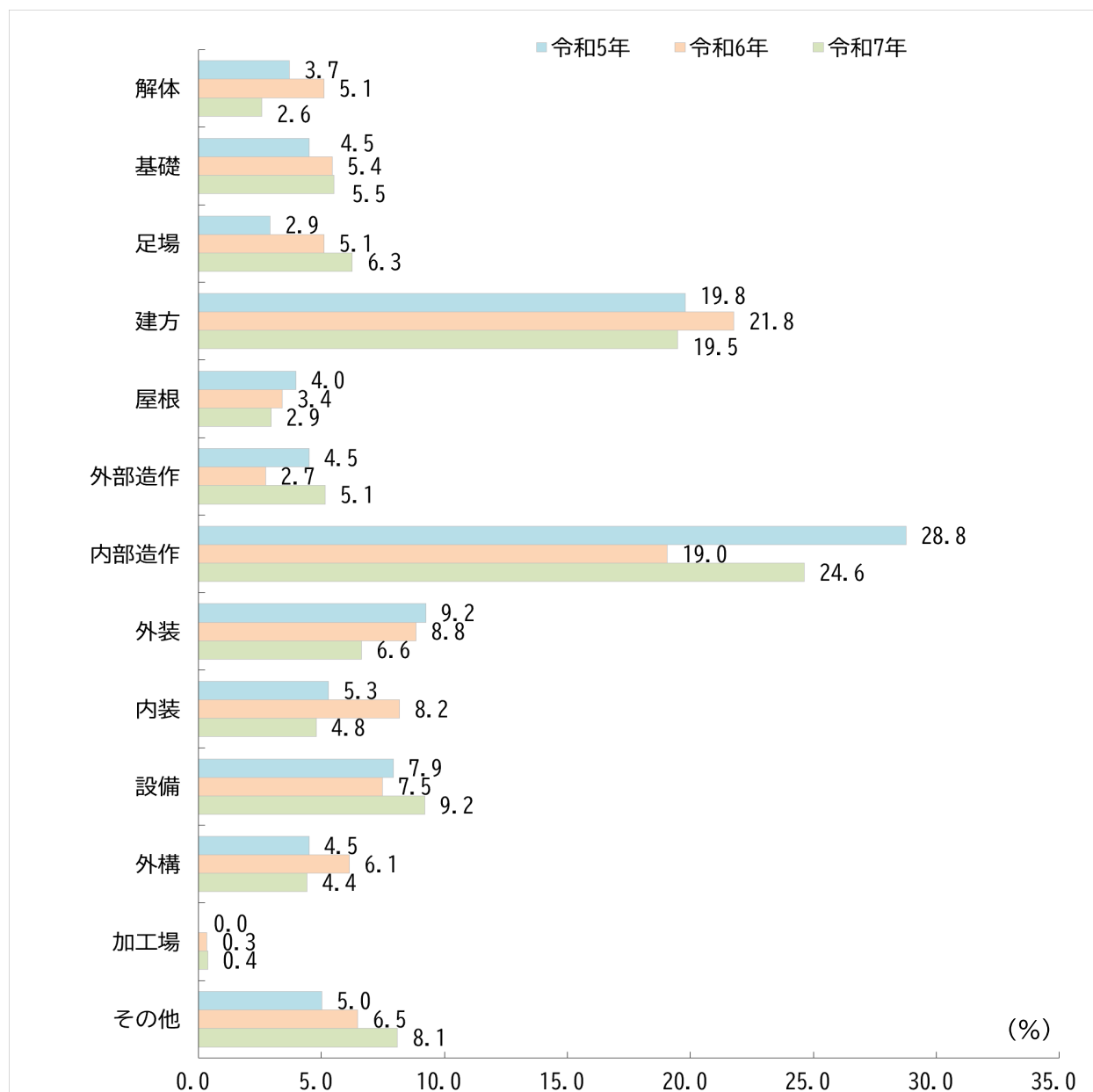
3. 作業分類別労働災害発生状況

令和7年においては、足場、外部造作、内部造作、設備の災害発生比率が増加した。特に足場については、増加の傾向が見られ、安全対策の再強化が求められる。基礎、加工場については、ほぼ横ばいとなっている。

一方で、解体、建方、屋根、外装、内装、外構の災害発生比率は減少となった。解体が半減した一方で、建方は減少したものの全体の19.5%を占めており、依然として高い水準にある。さらに、比率が増加した内部造作と建方を合わせると全体の約4割強(44.1%)の事故発生となっており、重点的かつ恒久的な改善が引き続き最重要課題である。

建方工事では、墜落制止用器具の使用徹底と作業環境の整備が、内部造作では脚立の正しい使用と、足場台の普及促進、電動工具の点検と作業手順の周知徹底が重要となる。また、倍増傾向にある外部造作工事をはじめ、全体の「原因・型別労働災害発生状況」において墜落・転落が増加している現状を踏まえ、高所作業における墜落制止用器具の確実な使用や、足場端部・開口部での安全確保など、リスクに直結した対策の再徹底が不可欠である。

図3. 作業分類別労働災害発生状況



※ その他の発生内訳：荷揚げ、雑工、美装、基礎補強、資材搬入など

4. 職種分類別労働災害発生状況

令和7年度の職種分類別労働災害発生状況は、作業時間が最も長い「大工」の労働災害が、全職種の36%と前年より、4.0ポイント上がり、例年と同じく全職種中、最も高い発生割合となっている。「大工」においては、職人の高年齢化が進んでいる職種であり、労働災害発生は、高年齢化による身体の衰えの影響もあると思われる。その年齢の構成割合も含め、今後もその傾向をより注視していく必要がある。

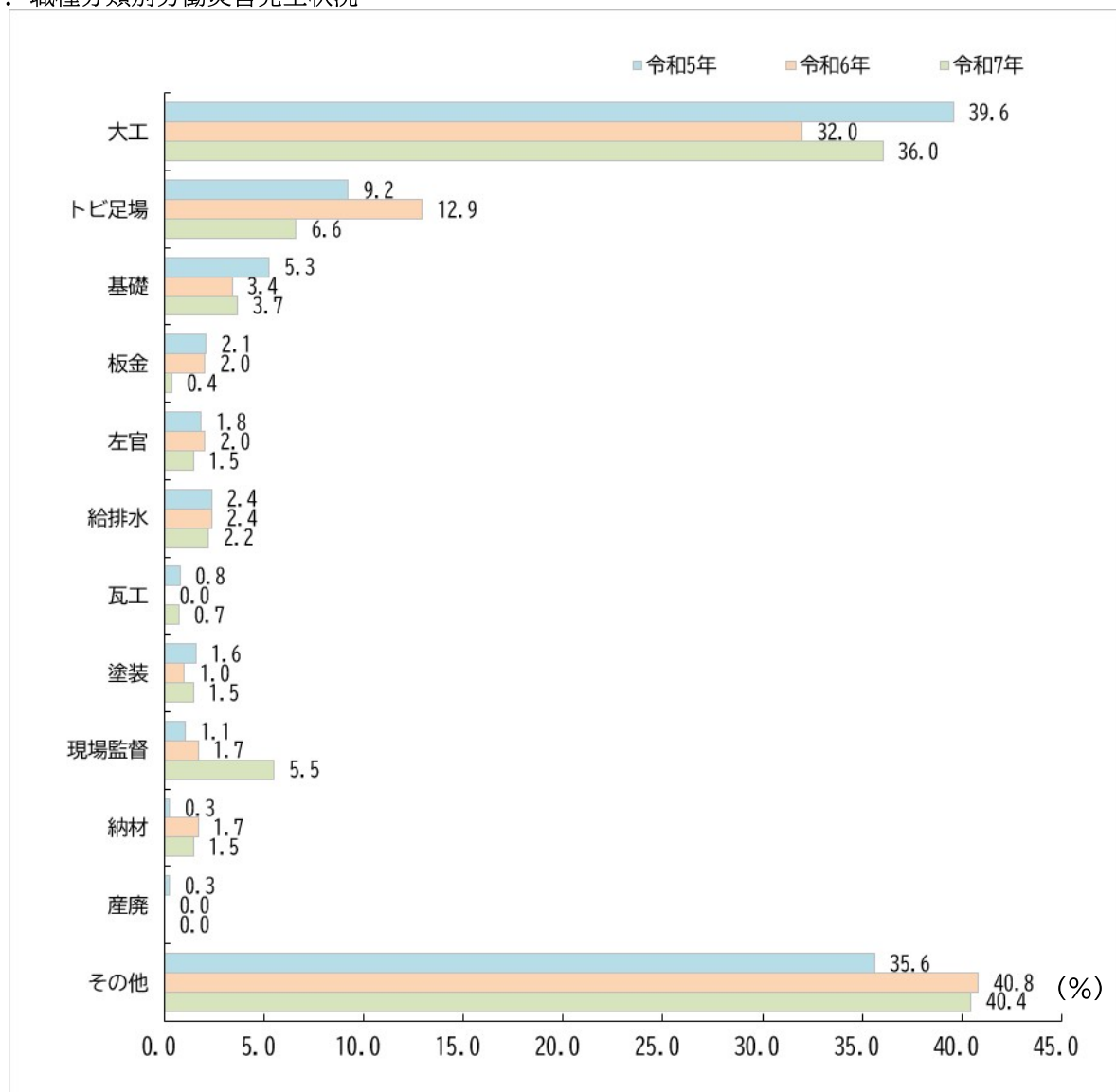
また、現場を管理するべき「現場監督」の労働災害発生が1.7%から5.5%と増加している。現場での資材搬入時の安全通路や、全体的な職場環境及び作業時の安全対策状況も再度、注意すべき点となっている。

墜転落の災害リスクのある職種としては、高所での作業が必要な「トビ足場」といった職種があげられるが、令和7年度の発生状況をみると、6.3ポイント減少している。これは「墜落制止用具」着用の成果と安全意識の向上が認められる。ただ、墜転落災害は、大事故となるケースが多く見受けられるので、今後、増加が見込まれる外国人労働者への対策も含め、更なる安全管理の徹底が重要となってくる。

「その他」の職種では、令和7年、全体の4割を超える災害が発生している。その中では、上にも挙げた外国人労働者が増えてきている「解体」作業での労働災害や、一現場に長期滞在しての作業を行うことが少なく、かつ、多くの現場を巡回する「荷揚げ工、外構工、雑工、美装、防水工、土工等」は、現場毎の作業環境に不慣れゆえの労働災害が発生している。

次に、「瓦工」の災害が増えているが、ここ数年の状況として、「とび足場」・「基礎」・「屋根、板金」・「大工」・「外構工」等、屋外の作業の多い職種では、熱中症の発症が顕著になっている。熱中症に関しては、その対策も「義務化」となり、全職種に発症リスクがあることから、各社・各現場で強化されてきているが、作業時における服装・装備や、作業計画、現場環境等、具体的な事前対策がより必須となってくる。

図4. 職種分類別労働災害発生状況



※その他の職種：組立工、荷揚げ工、補修、オペレーター、地盤改良など。

5. 原因・型別労働災害発生状況

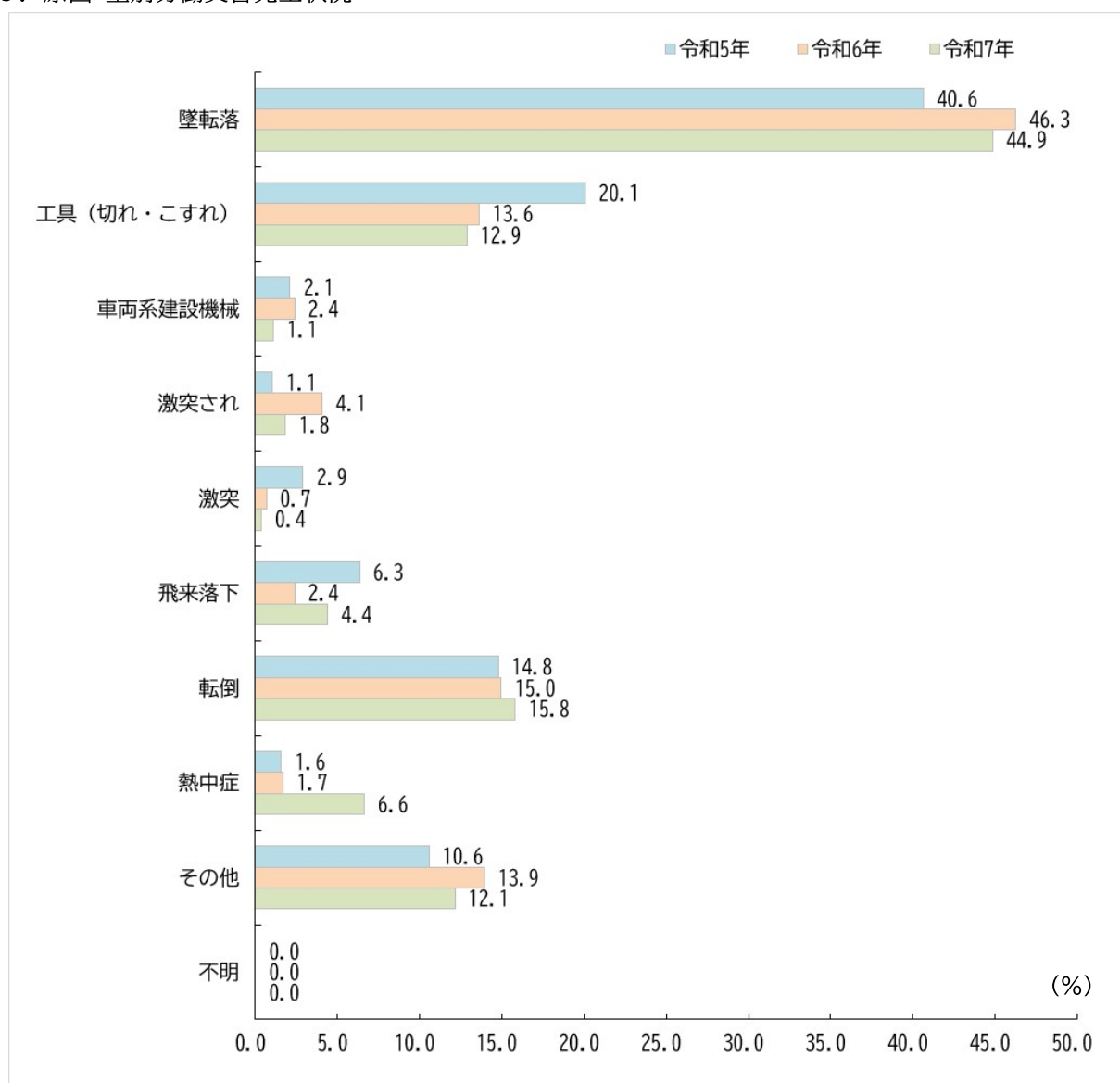
原因・型別労働災害発生状況は、依然として「墜転落」（44.9％）が最も多く発生しており、続いて「転倒」（15.8％）、「工具（切れ・こすれ）」（12.9％）、の順となっている。「墜転落」は引続き大きな課題であると共に、少しずつではあるが年々「転倒」による事故が増加している事が気になる点である。

墜転落の内訳では、「足場」（16.4％）からの墜転落については、一昨年からは減少したものの、未だ前々年を超える状況である。「足場」からの墜転落は重大災害に繋がる可能性が非常に高いので、手摺等の確実な設置と墜落制止用器具（フルハーネス）の使用を徹底させることが最重要である。又「屋根」（3.3％）からの転落は減少傾向となったが、一方で「開口部」（13.1％）からの転落は前年比で大幅に増加した。手摺の設置及び注意喚起表示等の対策徹底が必要である。「脚立」からの転落は依然として最も多く発生しており、全体の約3割（31.1％）を占めた。前年比では減少傾向も、引続き作業者に対する指導及び目配りが必要である。

工具による「切れ・こすれ」の内訳では、昨年同様に「釘打ち機」、「丸鋸」、「グラインダー」、「カッター」の順に事故が多く発生しており、全体の8割強（82.9％）を占めている。特に「釘打ち機」（34.3％）による事故が前年比大幅増となっている事と、「丸鋸」（28.6％）による事故が一昨年並みに急増した事が気になる点である。「回転工具（丸鋸・グラインダ）」においてはキックバック防止機構付き工具の導入、又「カッター」による事故においても耐切創手袋の普及が急がれる。

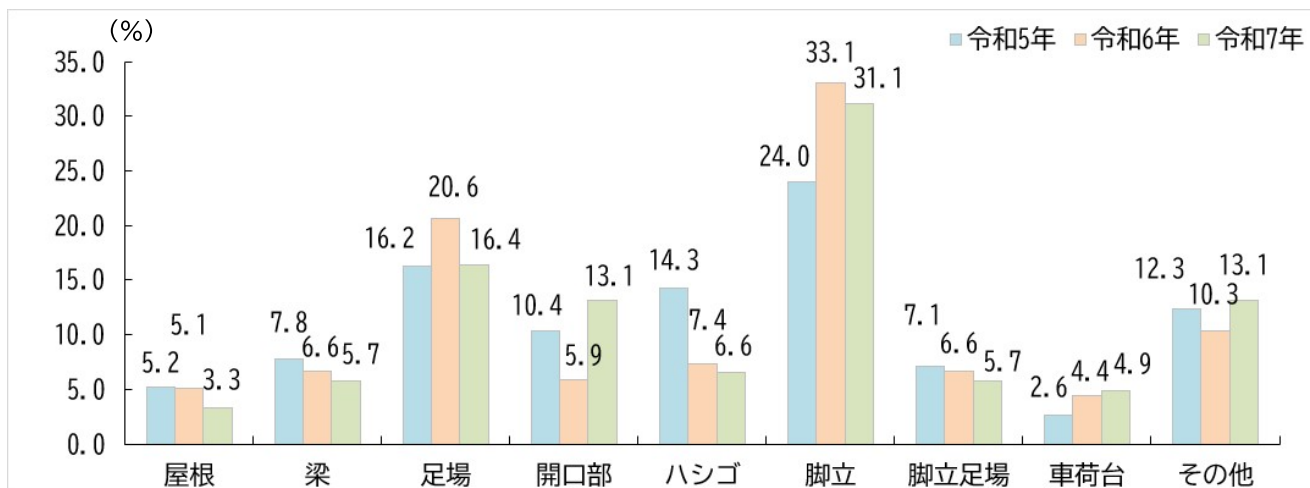
車両系建設機械では、「ユニック車」による事故が大幅に増加しました。又「その他」に分類されているミキサー車の事故等、重大事故に繋がる危険性が高い車両については引き続き注視していく必要がある。

図5. 原因・型別労働災害発生状況



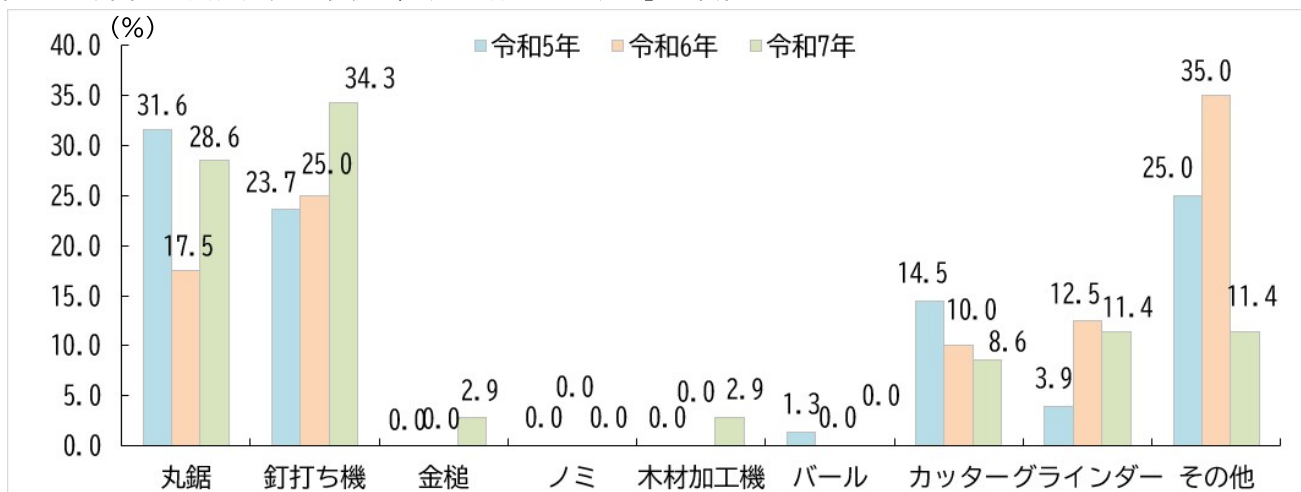
※その他の発生内訳：崩壊・倒壊、はさまれ・巻き込まれなど。

図 5-1 原因・型別労災発生状況（墜転落の内訳）



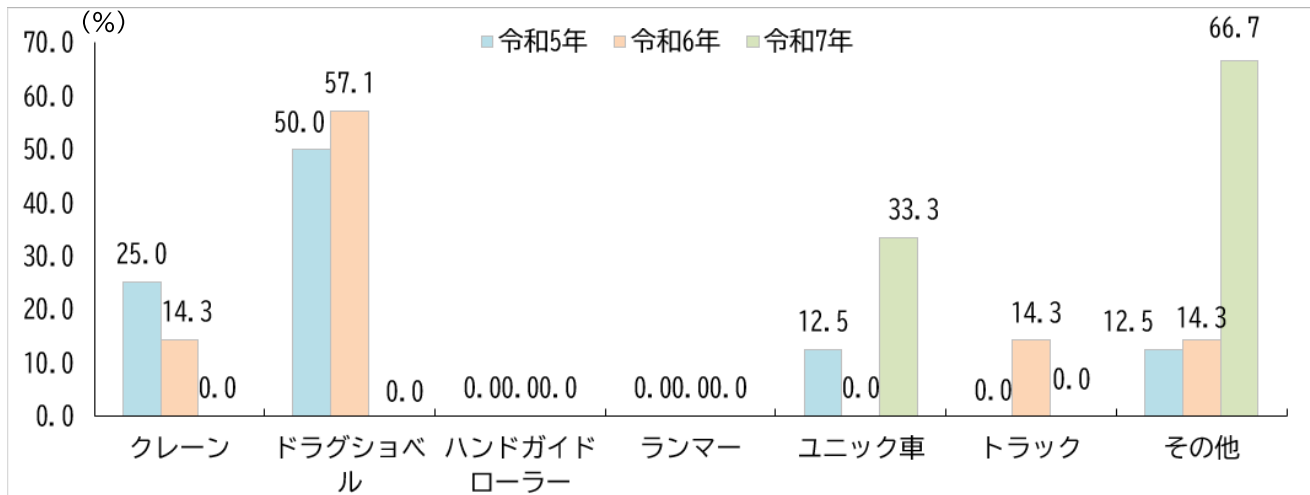
※その他の発生内訳：作業台、2階床、擁壁、階段、バルコニー、小屋裏など。

図 5-2 原因・型別労災発生状況（工具「切れ・こすれ」の内訳）



※その他の発生内訳：電動ドリル、インパクトドライバー、ホールソー、ガラス、部材など。

図 5-3 原因・型別労災発生状況（車両系建設機械の内訳）

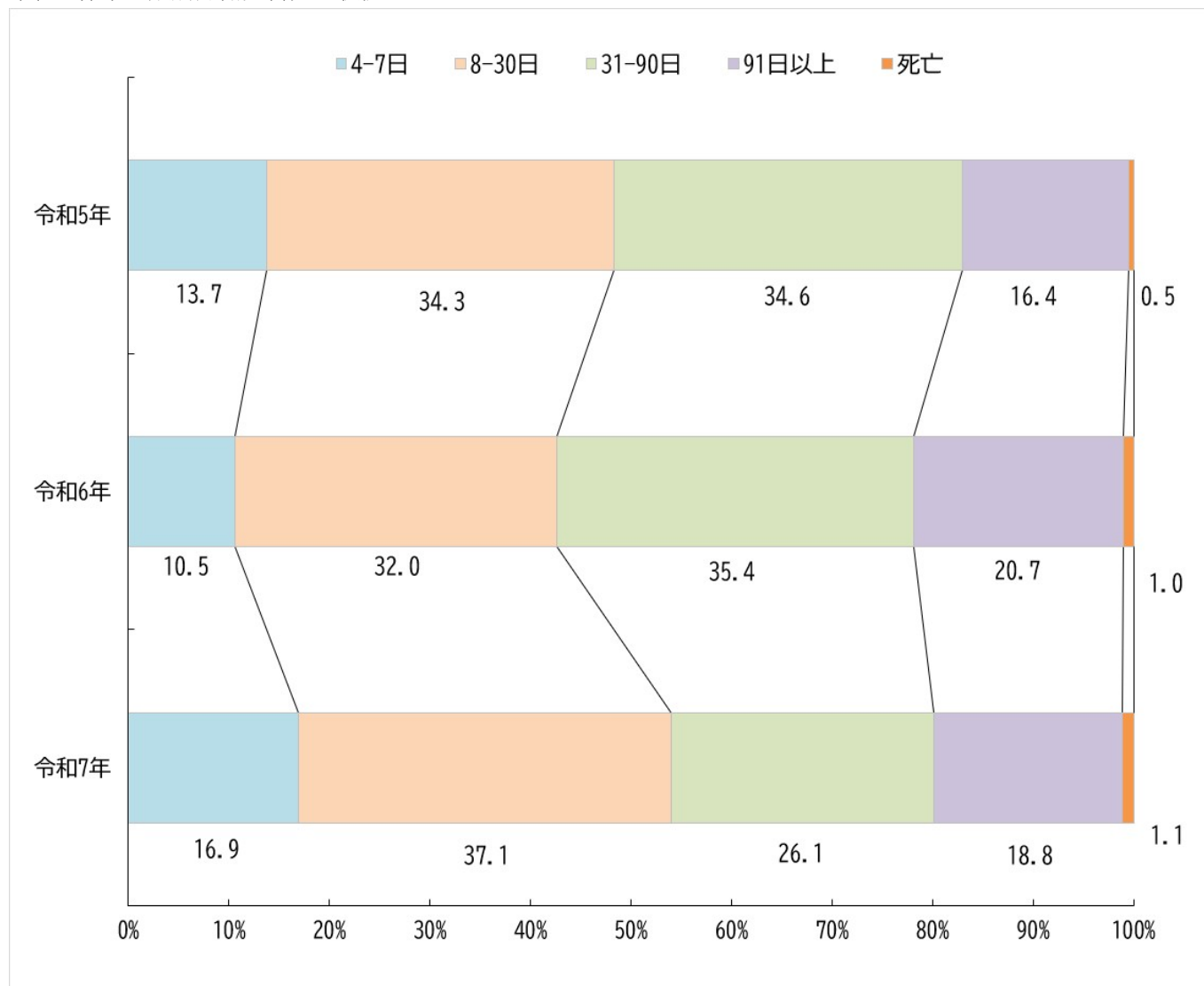


※その他の発生内訳：ミキサー車など。

6. 休業日数別労働災害発生状況

労働災害の休業日数について、直近3年間では休業31日以上の割合が50%前後で推移している。特に重大な災害につながる『墜転落』『電動工具』『車両系建設機械』『熱中症』について、元請業者・事業主が協力して労働者に安全衛生教育を行うとともに、現場での注意喚起やKYにより安全意識を高め、災害を未然防止することが重要である。

図6 休業日数別労働災害発生状況



7. 雇用形態別労働災害発生状況

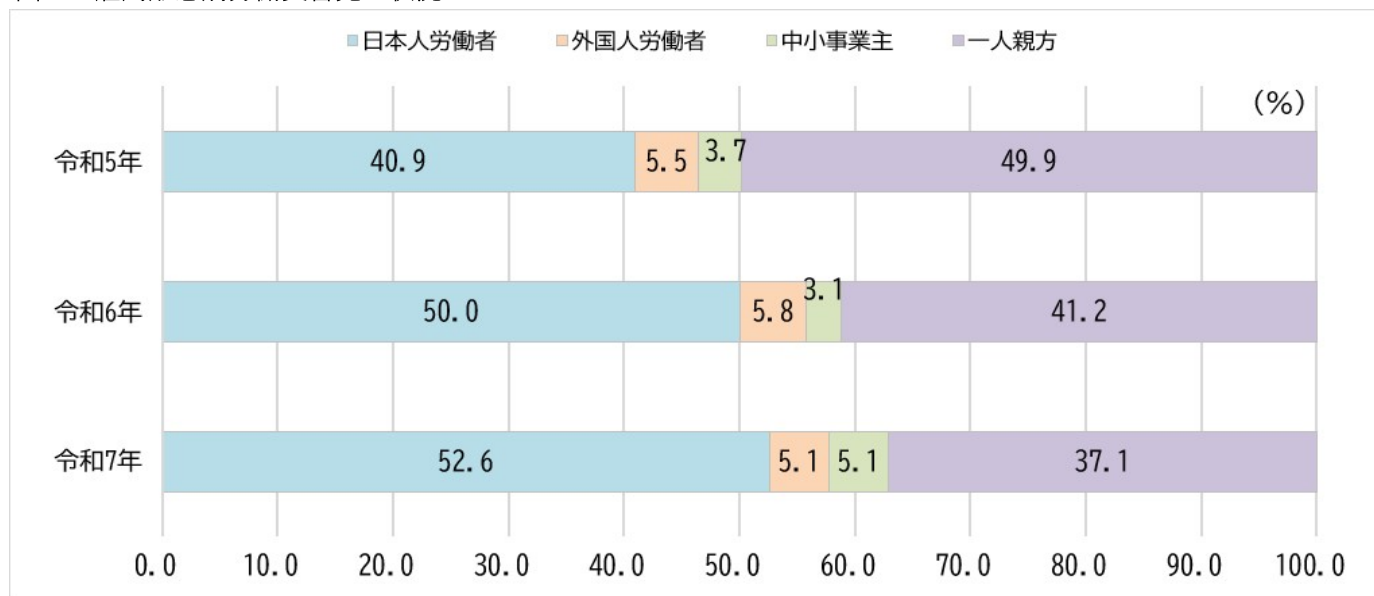
令和7年の労働災害発生状況を雇用形態別に見ると、日本人労働者が全体の52.6%を占め、前年の50.0%から増加しており、引き続き最も大きな構成割合となっている。一方、外国人労働者は5.1%と前年の5.8%から減少したものの、令和5年以降一定の水準で推移しており、その動向には引き続き注視が必要である。

中小事業主は5.1%と前年の3.1%から増加しており、事業主自らが現場作業に従事する機会の増加や作業環境の影響が背景として考えられる。

また、一人親方の割合は37.1%となり、令和5年の49.9%、令和6年の41.2%から引き続き減少しているものの、依然として全体の中で高い割合を占めている。個人で作業を行う特性上、安全管理体制の確保が重要である点に変わりはない。

今後は、雇用形態ごとの特性や近年の構成比の変化を踏まえたうえで、実態に即した労働災害防止対策を講じていくことが求められる。

図7 雇用形態別労働災害発生状況



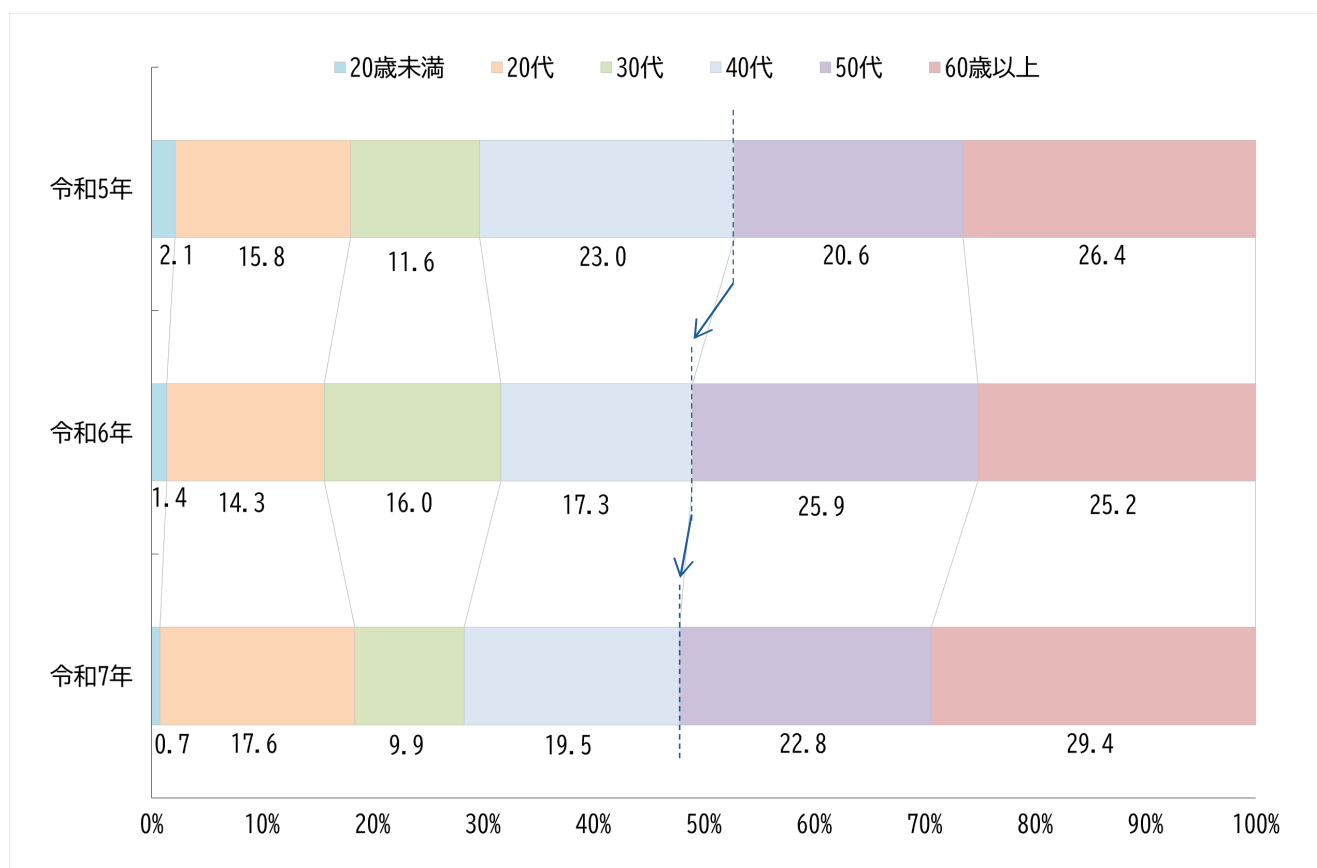
※不明が令和5年は0件、令和6年は0件、令和7年は0件。

8. 年齢層別労働災害発生状況

令和7年の年齢層別労働災害発生状況を見ると、令和6年に比べ60歳以上で29.4%と全年代で最も大きな割合を締め、50代、60代以上に占める割合が52.2%と全世代の過半数を超えている状況となっている。過去2年間と比較しても40代以下が令和5年52.5% 令和6年が49.0% 令和7年が47.7%と2年間で4.8%減少となり50代以上の増加傾向が進んでいる。今後も低層住宅工事に携わる高年齢化に伴う60歳以上の災害発生比率の増加と、若い外国人労働者の増加が予想されるため、中・高年齢層と経験の乏しい低年齢層の災害発生比率が減少傾向から増加する懸念が考えられる。また、原因・型別労働災害発生状況では墜転落が最も高い割合を占めているため、労働災害防止に対して、安全衛生責任者（推進者を含む）および現場の管理・監督者は、現場巡視による作業者の日々の健康状態の把握をおこなうと共に、特に建て方作業や高所作業における適正配置を考慮し、正しい作業手順が確実に実施されているか確認し、危険の芽をいち早く摘むことが必要である。

また、特に被災者の多い中・高齢者作業者に対する新規入場者教育・送り出し教育を確実に実施し、職長・安全衛生責任者教育、能力向上教育など安全衛生教育を継続的かつ、定期的に行うことにより、更なる安全に対する意識を高めていくことが重要である。

図8 年齢層別労働災害発生状況



※年齢不明件数は、令和5年が2件、令和6年および令和7年は0件。
（端数処理の関係上、各項目の合計が100%にならない場合があります）

9. 月別・曜日別・時間別 労働災害発生状況

月別の労働災害発生状況（図 9-1）は、熱中症の影響が顕著となる 6 月～10 月の発生率が高く、WBGT 値の低下に伴い発生率も低下する傾向が認められた。全産業における熱中症被災件数は過去 5 年間連続して増加しており、対策として定着している空調服に加え、より冷却効果の高い水冷服やペルチェ素子による局所冷却装備の装着並びに、屋外休憩設備や現場内へのエアコン設置による作業環境の冷却など、一層の対策強化を図る必要が有る。また、作業当日の WBGT 値に応じた作業計画の立案・実施と共に、ウェアラブルデバイスによる作業者の体調把握や、高齢作業員や警備員への熱中症対策などに関しても一層の充実が望まれる。尚、1 月～3 月の冬季においても夏季に次いで労災が発生しており、特に寒冷化の著しい地域においては低温・凍結・照度確保等の冬季対策についても併せて実施は必要となる。

曜日別（図 9-2）の発生状況は、令和 7 年においては月曜日～水曜日に 58.9% が発生しており、週前半に集中する傾向が伺える。休日取得後の作業開始時における KY 活動を充実するなど、不安全行動の回避に向け意識向上を図る必要がある。また、土曜日の発生率が低下傾向である反面、令和 7 年は日曜日に 2.2% と少なからず労災が発生しており、適正な休工日の管理が求められる。

時間帯別（図 9-3）では午前中の 9 時台～11 時台にかけての発生率が最も高く、次いで午後 14 時台～16 時台に比較的高い発生率を示す傾向が継続している。月別の発生率の高い 5 月～10 月においては昼前及び 15 時前などの休憩前の時間帯に疲労の蓄積による注意力低下が生じる可能性が高く、午前、午後の作業開始前の KY 活動を励行し注意喚起を図るとともに、気候条件や労働の継続による疲労の蓄積に応じ適時の休憩を取得するなどの安全対策について、継続的に安全衛生教育を実施しなければならない。

図 9-1 月別 労働災害発生状況

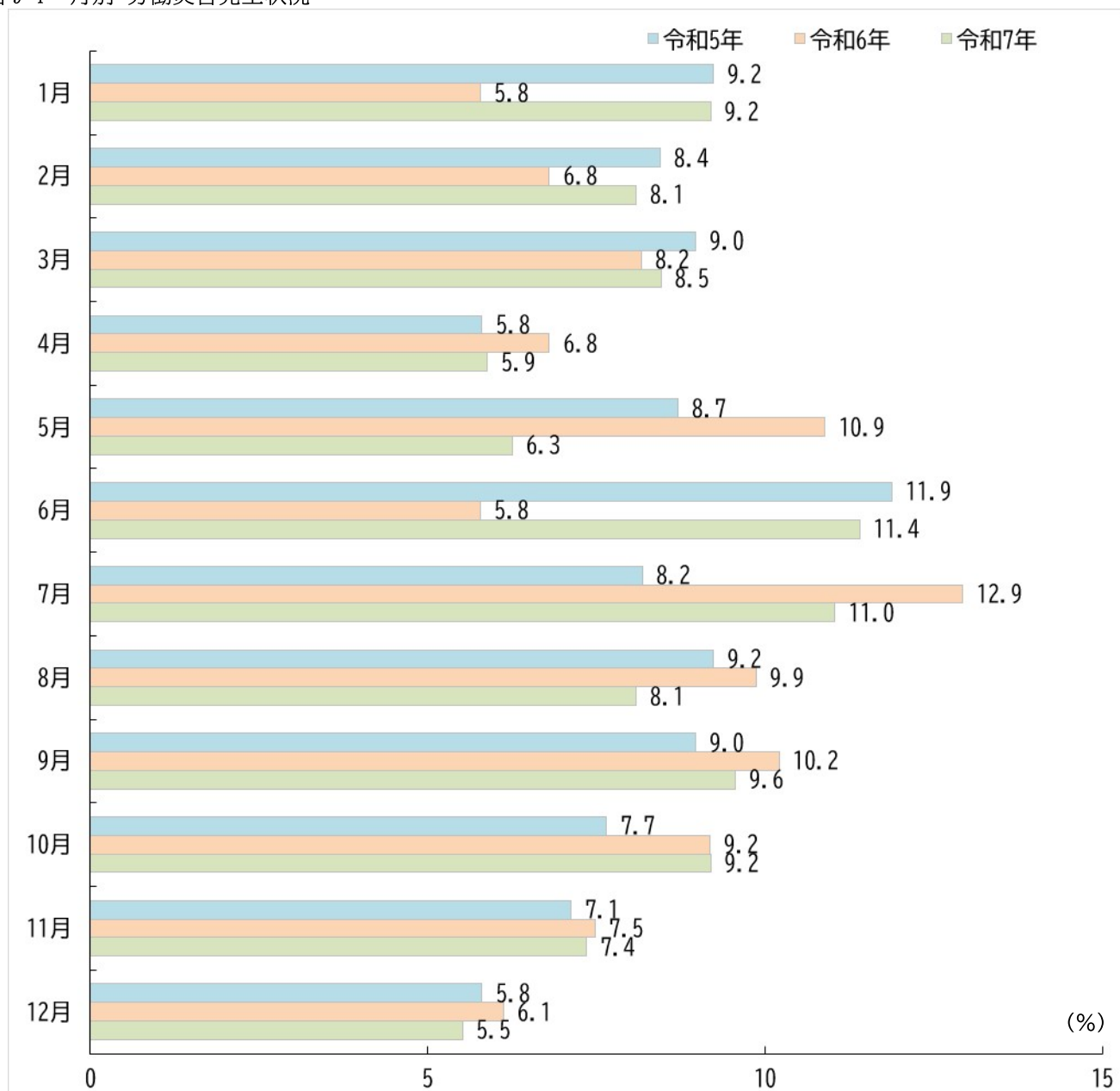


図9-2 曜日別 労働災害発生状況

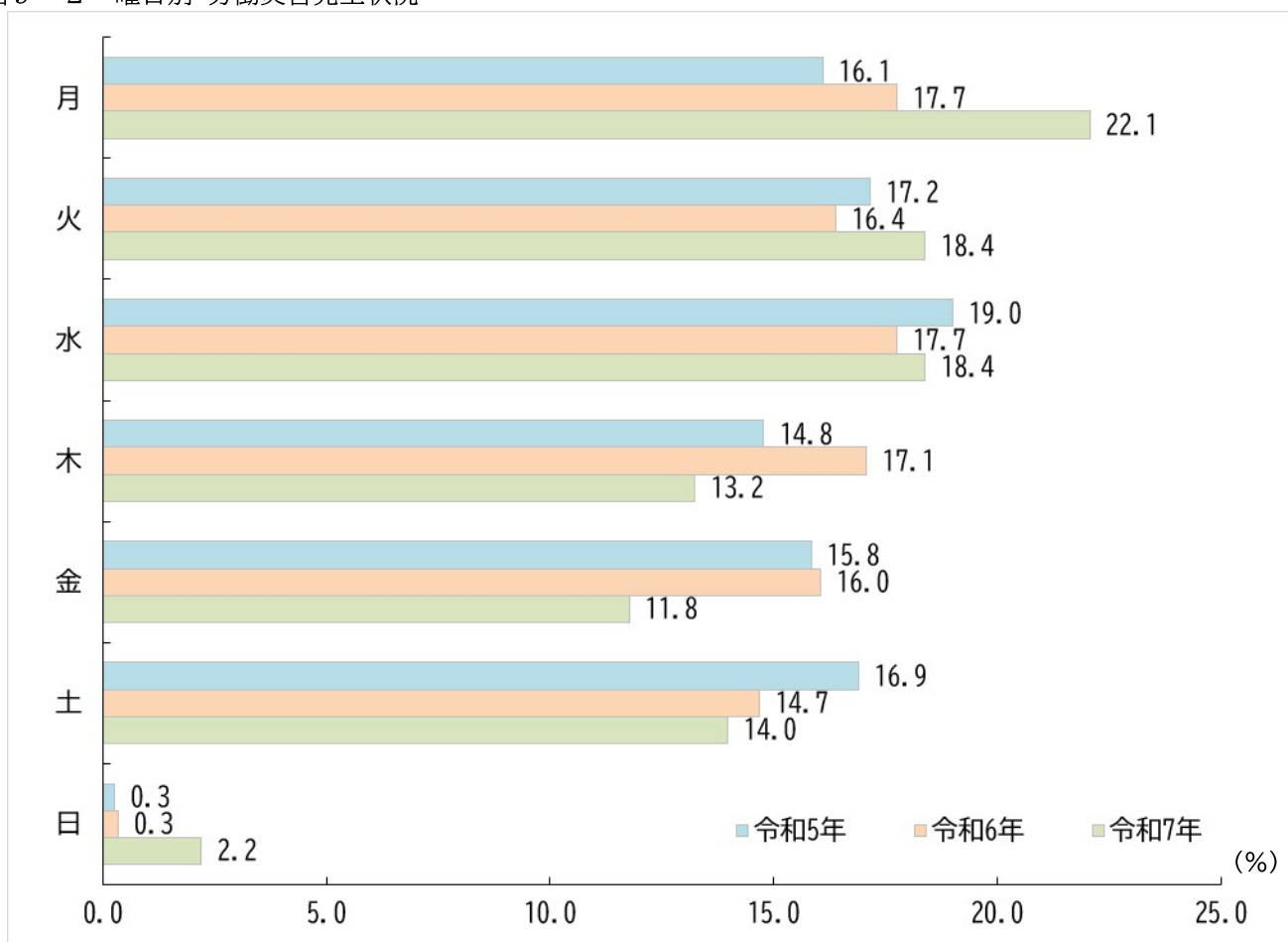
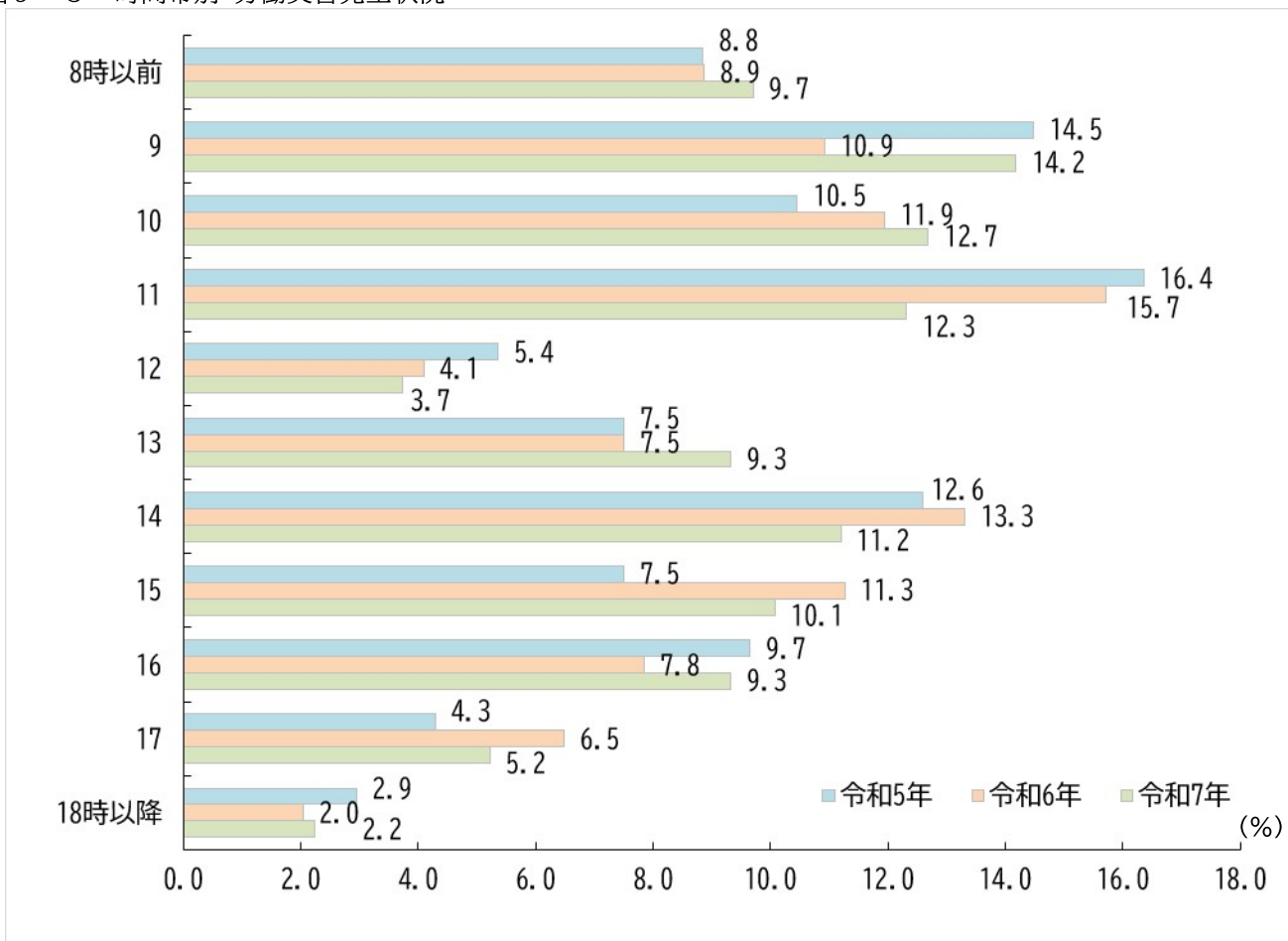


図9-3 時間帯別 労働災害発生状況



令和 7 年 労働災害発生状況

作業分類の「その他」(13)に対する回答 (図3)

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| ・点検 | ・清掃(2件) | ・アフターサービス |
| ・防蟻工事 | ・点検・補修 | ・防水 |
| ・地盤改良 | ・仮設物搬入 | ・荷揚げ(2件) |
| ・内装材荷揚げ | ・荷受作業 | ・ボード荷揚げ作業 |
| ・ボード搬入 | ・地盤補強(2件) | ・車両誘導 |
| ・玉掛け | ・部材搬入 | ・舗装 |
| ・地縄の確認 | ・気密検査 | ・家具工事 |
| ・出荷準備(2件) | ・打合せ前の清掃 | ・建材業者 |
| ・造成工事 | ・地盤補強工事 | ・配達員 |
| ・荷下ろし | ・品質検査 | ・現場管理 |
| ・資材納品・貰入 | ・記載なし(2件) | |
| ・クレーンオペレーター | | |

職種分類の「その他」(26)に対する回答 (図4)

- | | | |
|------------------|-----------|-----------|
| ・点検 | ・清掃(2件) | ・アフターサービス |
| ・ユニット据付 | ・地盤改良(2件) | ・ボード工 |
| ・住宅設備(2件) | ・内装床工事 | ・重機オペレーター |
| ・建方(20件) | ・内部付帯 | ・空調 |
| ・柱状改良 | ・職方補助 | ・据付工(3件) |
| ・土工 | ・警備員 | ・玉掛け(2件) |
| ・雑工 | ・警備 | ・舗装 |
| ・荷揚げ(2件) | ・実習生(15件) | ・気密検査員 |
| ・ラス | ・美装 | ・家具業者 |
| ・荷揚げ業者 | ・建て方 | ・断熱 |
| ・営業 | ・技能実習生 | ・建材業者 |
| ・造成工事 | ・地盤補強業者 | ・検査員 |
| ・地盤補強 | ・現場管理 | ・管理部門 |
| ・記載なし(4件) | | |
| ・クレーンオペレーター | | |
| ・搬入工(荷揚げ工)(3件) | | |
| ・揚重工(荷揚げ工)(2件) | | |
| ・弊社技能実習生(大工) | | |
| ・タイル・れんが・ブロック工事業 | | |

災害分類/墜転落の「その他」(19)に対する回答 (図5-1)

- | | | |
|--|-------------|-----------|
| ・荷揚げ機 | ・開口部作業床 | ・スケルトン階段 |
| ・階段から転落(2件) | ・可搬式作業台(2件) | ・仮床 |
| ・掘削部端部 | ・積上げ石膏ボード | ・境界部 RC 壁 |
| ・床 | ・トラック | ・床開口部 |
| ・擁壁 | ・昇降階段 | ・梁と足場の間 |
| ・ミキサー車から転落 | ・足場 | ・記載なし(2件) |
| ・境界から既存 CB までの控え寸法を測るため、高低差がある擁壁上へ足を掛けていたが、足がすべってバランスを失い、自ら飛び降りた | | |

災害分類/切れ・こすれの「その他」(29)に対する回答 (図5-2)

- | | | |
|-------------|----------|--------|
| ・ペンチ | ・建材で指をきる | ・部材で裂傷 |
| ・外壁材 | ・金具 | ・電動かんな |
| ・換気フード | | |
| ・壁起こし用のジャッキ | | |
| ・インパクトドライバー | | |
| ・電動モルタルミキサー | | |

災害分類/車両系建設機械の「その他」(36)に対する回答 (図5-3)

- | | | |
|-------|----------|------|
| ・地盤改良 | ・地盤改良柱状機 | ・結束機 |
| ・建柱車 | ・記載なし | |

災害分類/「その他」(90)に対する回答 (図5)

- | | | |
|---------------------------------|--------------|---------|
| ・挟まれ(7件) | ・蜂刺され | ・無理動作 |
| ・ボードの倒壊 | ・挟まれ巻込まれ(5件) | ・反動 |
| ・腰を痛める | ・捻る | ・とげが刺さる |
| ・崩壊倒壊 | ・切れ・こすれ | ・切創 |
| ・崩壊・倒壊 | ・踏み抜き | ・挟まれ事故 |
| ・着地の仕方を誤った | ・爆破 | ・腰を痛めた |
| ・挟んだ(2件) | ・捻った(2件) | ・攣る |
| ・打撲 | ・捻挫 | ・倒壊 |
| ・尻もち | ・記載なし(3件) | |
| ・一酸化炭素中毒(3件) | | |
| ・熱い瓦に膝をあてての作業で。5mm程の低温火傷による水ぶくれ | | |
| ・太陽光パネルのパワコン配線が症一として感電 | | |
| ・立て掛けていた材料の倒れ | | |
| ・はさまれ、巻き込まれ(2件) | | |
| ・資材が手の甲にぶつかる | | |
| ・屋根板金切断時、左ふとももに接触 | | |
| ・ボードに足を挟まれる | | |
| ・事故の型：切れ・こすれ 起因物：材料 | | |

災害分類<墜転落>の発生状況

- タイル貼りの隅出し作業中に足場から転落し右足首を骨折。
- 雨漏れの調査中のため梯子昇降中、梯子脚部が後方に滑り転落。
- 足場歩行中に蜂に遭遇し、咄嗟に後ずさりした際に作業床を踏み外し転落。
- 脚立に昇りシロアリ被害を調査中に転落し腰椎骨折。
- はしごに乗り樋詰まり改修作業中、棧に足を滑らせ転落し左肘骨折。
- 下屋から廃材をトラックに投げた時、廃材に上半身が引っ張られて落ちる。
- 6 尺脚立 2 段目にアルミ足場板を設置し、捨て貼りボード貼り中、バランスを崩し落ちる。
- 階段室に脚立で足場板をかけようとした時、バランスを崩し落ちる。
- 組立中、2 階で使用する床合板を運搬している時、吹抜けを跨ぐ際、足を踏み外して落ちる。
- 下屋足場設置中、下屋に乗り敷板を左足で押さえていた時、敷板が滑りバランスを崩し落ちる。
- 組立中、2 階床上での壁パネルを手作業で移動している時、持っているパネルで足元が見えず、下屋の吹抜け部から落ちる。
- 防水工事中、内部仮設階段を昇る時、足を踏み外し落ちる。
- 内装工事中、踏み台に乗り天井に仮付の物干し金物を取り外して降りる時、電工ドラムを踏ん転ぶ。
- ユニットバスの打合せ中、ユニットバス設置予定場所に降りた時、給水管に乗り小指から着地する。
- 階段室吹き抜けでスライド梯子を設置し、ファイバーテープを施工中、梯子のスライド部分がズレ、バランスを崩し階段に落ちる。
- 屋根下地材料を荷揚げ機から足場に移し中、資材のバランスが崩れ、資材とともに隣の下屋に落下後、地面に落下する。
- 脚立足場に乗り洗面所の天井貼り中、足を踏み外し落ちる。
- 外部足場解体の解体資材の荷受け中、足場を移動し、1 段下がった (45 c m) 布に足を下した時、脛が建地に接触し、右足首を捻ねる。
- 9 尺脚立の 2 段目に乗り、壁パネルの接着剤のはみだしを除去中、バランスを崩して落ちる。
- 6 尺脚立に乗り、リビングの壁に間接照明取付中、体勢を崩し落ちる。
- 2t トラック上のラックから降りる時、ラックの梯子のステップをつかみ損ねて地面に落ちる。
- 3 階の階段吹き抜け部の仮床解体中、バランスを崩して落ちる。
- 足場板の一方は脚立に、もう一方を壁に固定した受け材に寄せ天井石膏ボードを貼っている時、受材が外れ足場板と共に落ちる。
- 1 階ユニットバス内で土間に脚立を立て配管中、バランスを崩して落ちる。
- PV レールカバー取付中、雨で濡れた PV ガラス面に足を掛けた時、足が滑り落ちる。
- 脚立で照明下地を取り付け中、バランスを崩し転落し背骨骨折。
- 階段上部の施工のため、仮床に上ったところ床が破損して落下、足骨折。
- 脚立上でガレージタイル施工中、バランスを崩して転落し頭部損傷。
- トラックの荷台に上がる際に手が滑って転落し、腰を打って骨折。
- 階段を踏み外して転落しあばら骨折。手すり未施工。
- 電線を引き出していた際に、掴んでいた工具がすべり、反動で後方に転落。
- 手摺部材が外されているのに気づかず 1 層目より転落しひざを骨折。
- 脚立上で作業中、無理な体制でバランスを崩して転落、わき腹を強打した。
- 仮設階段で 2 階から降りる際、仮設階段の足元がすべり、仮設階段ごと 1 階床上に墜落した。
- 床面に碎石を敷きならした平坦な場所で、内装パネルの設置作業をしている時、5 尺脚立の 4 段目（天端の 1 段下）に跨り作業を行っていたところ、バランスを崩し、脚立と一緒に後方に墜落した。
- 3 尺脚立から降りようとした際、降りる先に部材のキャビネットがあったため、反射的に足を引っ込めバランスを崩し転倒。その際にビットが左わき腹に刺さった。
- ロフトに部材を上げる作業をしている時、本設のロフトはしごを、掛けるバーを設置しない状態で立てかけて使用。不安定だったためバランスを崩し、およそ 2.3m の高さから墜落。
- 3 階高さにて、仮床を設置し EV ピット内ボード張り作業を行っていた。界壁に棧を打ち角材を渡し仮床を設置していたが棧木が外れ仮床ごと墜落。2 階の仮床も破り 1 階土間まで墜落した。仮床下水平ネットは固定する箇所がなく、設置されていなかった。
- 玄関框付近において、3 尺脚立を使用して間仕切りランナー固定作業をしていた。脚立から降りようと、またいだ足を戻そうとしたところうまく足がかからずバランスを崩し、反動で脚立が動いた。脚の一本が玄関框から落ち、脚立ごと身体が墜落し、框部分で右わき腹を強打した。
- 境界ブロック施工の準備をしており、境界から既存 CB までの控え寸法を測るため境界をまたがって立っていた。隣地側は 1.8m 程度の高低差がある擁壁上へ足を掛けていたが、足がすべってバランスを崩したので自ら飛び降りた。
- 足場解体作業において、足場横にトラックをつけ、足場の横棧とトラックの荷台に足を掛け部材の受け渡

し作業を行っていた。濡れていた横桟に乗せていた足が滑り、墜落した際に横桟に胸をぶつけて、肋骨を1本骨折した。

- 1 階屋根梁と手すり材に足を掛けて火打ち材を取り外そうとしていた時、吊っていた外壁が風にあおられ被災者に接触。バランスを崩して1層目作業床に墜落した後、地上まで墜落した。
- 高さ 4.7m 足場の 2 層目幅 24 cm 作業床上にて、頭上のシャッターボックスを気にしてかがんだ姿勢のまま部材をまたいだ際、バランスを崩しメッシュシートに身体を預けるような体勢となり、そのままメッシュシートの紐が切れ、とっさに足場を蹴りながら墜落。墜落制止用器具は着用していたが使用していなかった。
- 吊る部材に帯がしっかり掛かっていないように見えたため、クレーンのオペレーターがトラックの上に登り、荷を見に行き、トラックの鳥居部に手を掛けながら降りようとした際、指輪がどこかに引っ掛かったため中指に全体重がかかり骨折。再建不能のため切断となった。
- 外部足場解体作業中、トラック荷台の積み荷(建地)の上で共同作業者から巾木の受け取り作業中に、受け取った巾木を片付けようとした際に平積みしていた建地が崩れ、バランスを崩して荷台から落下した。
- 建方職がステージ足場間を移動中、足を踏み外し基礎上に落下した。
- 工事責任者が自主検査時に 2 階から 3 階への移動する際、吹抜け足場に梯子を掛けて昇降中に未固定であった梯子の足元が滑り足場から外れて開口部から 1 階へ墜転落した。
- 美装業者が内部清掃中に階段で 2 階から降りてくる際、3~4 段目から落下した。
- 大工職が 2 階にて 1 人で勾配天井部の断熱材の敷き込み作業中、断熱材をもって可搬式作業台に昇降した際にバランスを崩して転落した。
- 外装職が 2 階吹抜外部の構造用合板貼り作業中に、2 階吹抜を塞いでいる仮床へ載った際、仮床が落ちて仮床と共に 1 階床へ落下した。
- 作業台の上で天井野縁組の作業中、バランスをくずし作業台から転落転倒した。
- 足場 1 層目で梁ボルト接合作業中、降りるため足場から脚立に移ろうとして約 2m 下に転落した。
- 4 尺脚立上で間接照明上部の下地を固定中に、脚立後方に力がかかり脚立の転倒と共に床に落下した。
- 移動中に別の職方とすれ違う際、避けようとして掘削部から H1200 のベース部に転落した。
- 外構職方が新設側溝上にて現場打ち側溝のコンクリート打設作業中、開口部に歩み板をかけようと移動した際に、側溝の縁から足を滑らせて深さ 900mm の側溝開口部に転落した。
- 建方職が基礎内部で 2 階床梁を調整中、7 尺脚立に上る途中にバランスを崩した。
- 大工が梁上で体勢を崩し、昇降のため一部捲っていた水平ネットのない箇所から床（パーチ）上に墜落した。
- 大工が壁下地のふかし材を 4 尺脚立で取付け作業中、インパクトがズレたことでバランスを崩してしまい腰から土間床に転落した。
- 建方工が荷受けトラックの荷台上で玉掛け作業にて吊り荷（鉄骨梁材）に帯を巻いた際、吊り荷の梁同士が開いた為、それを直そうと荷の側面側へ移動しバランスを崩し荷台から落下。
- 大工が開口部の固定されていない仮床の端に降りた為、大引との間から転落した。
- 大工職が重ねて保管している石膏ボードへ掛けた際、足を掛けていた石膏ボードが割れて転落。
- 建方工が室内にある軒先母屋（4m）を小屋梁上から外部足場上へ出す作業中に、バランスを崩して 2 階 ALC 上に転落した。
- 大工工が 4 尺脚立の上から 2 段目に跨いで作業し、次の作業のために脚立を降りようと右足を上げたときに軸足の左足が踏み棧から外れ転落した。
- 仮設階段を降りる際に、固定されていない仮設階段が滑走し転落した。
- 建方工が 7 尺脚立を跨いで使用し、脚立上で身体を反転しようとして足が脚立に引っ掛かり転落した。
- 隣地境界部 RC 壁から高低差 1.7m 下の水路に転落した。
- 大工職方が脚立から降りようとした際、足を踏み外して脚立の 2 段目と 3 段目の間に右足を踏み入れてバランスを崩し転落した。
- トラックの荷台によじ登った際、ズボンが引っかかり墜落。
- 脚立を使い、壁ボードビス打ち中、高いところを無理して施工し墜落。
- 先行足場組立中、背面の職方へ材料を渡そうと体をひねって腰を痛めた。
- トラック荷台で資材間配り中、手を切った。
- 一部残した足場を解体中、足場が崩壊した。
- トラック荷台から資材荷下ろし中、肩を脱臼した。
- 脚立で断熱材敷き込み作業中、バランスを崩し墜落。
- 両手に荷物を持った状態で足場昇降階段を登り、ステップを踏み外して転落。
- 界壁の是正工事完了後、脚立から降りようとしていた時によろめき、体の左側面から落下して肋骨を骨折。
- 足場解体作業中、手すりの無い作業床からバランスを崩して転落。
- 養生足場の布上で養生シートの紐を結ぶ際、滑って転倒落下。

- 風で傾くパネルを支え転落、安全帯不使用とネット未復旧により落下。
- トラック荷台上の壁パネルラック上での玉掛け作業中、荷台へ転落。
- クロス貼り中、歩み板から脚立へ移る際、踏み外し転落。
- シャッター部材搬入作業中、足場の下を歩行した際、足底の前面で足場根がらみを踏んでしまいふくらはぎを伸ばし、腓腹筋断裂を発症した。
- 内部昇降設備を上階に引き揚げようとしたが、支えきれずに設備とともに下階に墜落し、肋骨、肩、腰を骨折。
- 2階下がり床の根太を外壁側の側根太に乗り固定中に墜落し、頭がい骨骨折。
- 小屋組み作業のため、天井根太に敷いた合板を踏んだところ固定されておらず、天秤になり墜落し、肋骨骨折、頭部、腰部ほか打撲。
- 階床材荷揚げ中に梁の上でバランスを崩し足から落下し足首捻挫。
- 2階床からビス固定の少ない室内昇降設備（ハシゴ状階段）を後ろ向きに急いで降り、ハシゴが滑りハシゴごと落下。右肩挫傷。
- 屋内ガレージにて天井材を貼るためウマ足場を組んでいたが、重量のある天井材を持ったまま足場に上がろうとして左脛骨近位部骨折および左膝関節血腫となった。
- 建て方工事中に重さ 100kg 超の LVL 梁材をトラック荷台で移動中にバランスを崩し LVL 材が転がり足が挟まれ打撲となった。
- UB 用の床開口で半分のみ床養生していた石膏ボード貼り中に脚立からバランスを崩し転倒。首筋出血と臀部打撲した。
- サッシ本付けの際、サッシが滑り親指と人差し指の切り傷発生。
- 足場組立中、足場部材を取ろうとしたかがんだ際、腰手摺に当たり、落下。
- 2i 昔床合板張り施工時に敷き詰めた未固定の合板の上に乗り合板が滑り作業員が1階土間墜落。
- 解体作業中、屋根から墜落し救急搬送。左腕、開`面蓋骨一部の骨折。
- 2l 昔の仮設電気を隣の部屋に移動させるために窓から庇へ移動した際に転落。完全なる不安全行動。病院へ救急搬送。大腿部骨折、頭部強打1カ月入院。
- トラック内より道具を取り出し、トラックから降りるときに転落、背中を強打。肋骨骨折。
- 建方作業時、内部昇降設備を使用した諏床との隙間から転落。救急搬送し、左肘亜脱臼骨折、胸椎圧迫骨折。
- 仮床解体中、足を踏み外し 1m 程度転落。
- 脚立にて天井下地を施工中にバランスを崩し転倒。
- 被災者が足場の材料をトラックに積込む際に先に積んであった足場が崩れ腰を打った。
- 脚立から落下。
- 足場板に木材を使用、割れた為転落した。
- 足場の段差に気が付かず、踏みはずした。
- リビング勾配天井部施工後、脚立足場から降りる際に墜落。
- 梯子上で壁ボードを剥がした際に反動で後方に墜落。
- 釘打ち作業中、脚立の脚が滑り体勢を崩して転倒した。
- 第二作業床で外した手摺を地上の作業者に渡した際に墜落。
- 引っ張った配線が脚立の伸縮ロックに掛かり外れてバランスを崩し転倒。
- 脚立から降りる際に一番下の段で踏み外し転倒、左手甲を切創した。
- 踏み台の脚がずれ土間の段差から外れ転倒、左肘の肘頭を骨折した。
- 4尺脚立にて作業中に体勢を崩し背面方向へ転倒、右手首を骨折した。
- 屋根隅木施工中に体勢を崩して落下、梁に肩を強打し肩甲骨を骨折した。
- 高さ 1.2m 擁壁上に CB を設置中に体勢をくずし道路側へ転落した。
- 火打ち取付中にバランスを崩し基礎と足場の間に墜落した。
- 昇降梯子を降りる際に一番下の足掛けで滑り、建地に肩を強打した。
- 脚立から降りる際に左足を踏み外し転倒、右手首骨亀裂を骨折した。
- 内部階段昇降中に頂部が滑りはしごと共に墜落、左踵裂傷・左膝右足裏打撲。
- 足場上から床にジャンプして下りたが、バランスを崩し2階床へ墜落。
- 脚立の脚が踏み板から外れ脚立と一緒に横向きに倒れる形で落下。
- ボード荷揚げ作業中、歩み板を置いていた受け材が外れてしまい、墜落。
- 梯子を使用して降りる際に、足を滑らせ、梯子の角に腕をぶつけ、裂傷。
- 間柱で仮床を作成中に、足を滑らせてしまい3階床から2階床へ転落。
- 安全ネット復旧する際、脚立の移動を怠り8尺脚立5~6段目から落下。
- 2階階段室の仮床が外れていた箇所から1階へ墜落。
- 外部足場作業床より移動中、足場の段差により踏み外し落下(高さ約1m)。

- 足場設置中バランス崩し基礎・土台分に腕から落下し骨折。
- 木工事中に仮筋を外し、外したことを忘れて上に向いた釘を踏み裂傷。
- 階段開口部の仮床をベニヤ板等仮置きし荷重オーバーで仮床ごと落下。
- 1回の換気外部フードを6尺脚立4段目で作業中バランス崩し落下。
- ガレージの構造用合板を張る為、脚立作業でバランス崩し転落。
- 2階で作業中、座位から立ち上がった際、足を踏み外し転落。
- 建材を運ぶ際、仮床端部に接触バランス崩し仮設梯子6段目から落下。
- 部材持上げる際、仮設梯子6段目よりバランスを崩し落下。腰骨骨折。
- 1～2階の階段取り付け作業時6尺脚立から降りる際、足を踏み外し転落。
- 高さ約3mの現場打ちコンクリートの擁壁工事中、型枠をよじ登り転落。
- 2階母屋・束の作業をするため、外部足場から梁に移る時に作業床がずれ転落。
- 梁かけ作業中足場からバランスを崩し1F床へ転落。
- 脚立を使用し型枠取り外し中、墜落した。
- 足場解体中足場材積み込み中転落。
- 足場解体作業中、90cmの段差を飛び降りて足首捻挫。
- 単独脚立で屋内屋根廻り気密工事の充填ウレタン処理作業中、バランスを崩し、6尺脚立の4段目付近から床合板上に墜落。右手首骨折、左肩甲骨骨折、左右肋骨骨折負傷。
- 作業箇所へ移動中に崩したバランスを取り戻すために、施工中の屋根板金角に左手のひらをついたところ、手のひらを裂傷。
- 建て方時小屋梁から2階床に墜落打撲。
- 建て方時小屋梁から2階床に墜落骨折。
- 脚立を使って外部足場作業へ移動しようとしたところ、バランスを崩して2階床に落ちた。
- 足場第2層（約5m）から道路へ転落した。
- 脚立足場台から足を踏み外して転落した。
- 脚立上でバランスを崩して転落した。
- 材を跨いで固定し釘打ちしようとしたところ、左足太ももを誤射した。
- 作業床からバルコニーに入る際、胸をひねって、右胸部の筋を損傷した。
- ミキサー車からの転落により、くも膜下出血・顔の腫れ・背骨骨折。後に脳死状態より死亡した。
- 胴縁材を掴もうと身を乗り出した際、バランスを崩して足場3層目から地上へ落下した。
- 2階床パネルから下屋下部の1階床へ転落。
- 壁の石コウボード施工中に脚立から転落。
- 材料整理中に脚立から足を踏み外し落下し受傷。
- 防水工事準備中に足を滑らせて足場から転落。

災害分類<切れ・こすれ>の発生状況

- 組立中、壁パネルに釘打ちしている時、釘が跳ね返り腕に刺さる。
- 2階バルコニー内入隅部で、外壁下地をグラインダで切断中、切断の反発でグラインダで手を切る。
- 床根太解体中、廃材を足で押さえ丸ノコで切り始めた時、丸ノコがキックバックし、足の親指を切る。
- 器具取付中に配線を差し込む際に掴んでいたペンチが滑り、左目に当り負傷。
- 戸建てのシステムバス設置場所にて、窓枠を施工する為に石膏ボードを加工している時に、5.5mmベニヤを定規の代用にして素手でカッターを使用して切断先に添え手があり、カッターの刃が滑り左手人差し指を裂傷した。（この後に材料搬入が控えており、気持ちに焦りがあった）
- 天井下地用のベニヤを割くため、左手にベニヤを持ち丸ノコを動かしたところ、刃の通り道に人差し指がありそのまま切傷した。
- 作業台上で卓上丸ノコを使用して巾木の切断作業をしている際、刃の回転が完全に止まる前に手を近づけてしまい切傷。
- 作業台上にて部材ベニヤ板を2枚重ねて約5cm幅にてカットしているときに、電動丸ノコがキックバックした事により、部材を抑えていた左手側に丸ノコの刃がかぶさるように跳ね返って来た際、親指付近を切傷した。
- 1～2階踊り場で2人作業中、脚立で階段天井仕上げ材を受け取ろうとしたところ、渡そうとした作業者と被災者として息が合わず階段天井仕上げ材を受け取った際に切創した。
- 縁石をクラインダーで切断作業中、キックバックを起こし、左手甲に接触し裂傷した。
- 屋根下地垂木取付作業中、くぎ打ち機にて垂木を固定する際に下地材の節に釘が当たり、添えていた被災者左手示指に75mm釘が刺さった。
- 大工職が天井下地作業中、換気扇レベルを調整する中に取り付けしていた専用金具に手首が接触し裂傷し

た。

- カーポート屋根に取り付けてあるビスをディスクグラインダーにて切断中、刃が割れてキックバックを起こし左手掌にあたり裂創した。
- 基礎職が電動丸鋸を使用した際に固定が不安定な状況であったため、切削時に丸鋸が跳ね返り右太ももを電動丸鋸で切創した。
- リフォーム工事にてホーロー浴槽撤去のためにグラインダーでカット中にグラインダーが跳ねて作業ズボンに巻き付き足の甲を裂傷した。
- 外装工事中に丸ノコの刃の部分に切断した粉が詰まり安全カバーの動きが悪くなり切断後に刃を上向きにし、丸ノコを置く際に左手甲に接触し切創。
- 壁組み工事にて壁起こし中、ジャッキ受け 204 材が足場資材に当たるため長さカットしていたがジャッキが上端で抜けてしまい壁が倒れ脚立ごと転倒。右腕右腰打撲。
- 丸鋸でクサビを作成中、クサビが跳ねた勢いで指の先を切った。
- 現場敷地内にて工具を下ろしている最中誤って、釘打機が右足小指に当たる。
- 釘打ち機にて左手親指に誤射。左親指にひび。
- 打打ち機にて左中指に誤射。
- サイディングボードを下から持ち上げた際手から滑り落ち左手親指、人差し指を裂傷。 7 針縫う。
- 建て方屋根小屋組作業時、不安全な体制で釘打ち機を自分の方向に向けて使用し、釘が自身の腹に刺さり切創。救急車にて病院搬送→入院。内臓等の損傷なし。
- 屋外での部材加工中、左手で材料を固定して丸ノコで切断していた際、キックバックが発生。跳ね上がった刃が左親指に接触し、第一関節を切断した。
- 被災者が外壁重張りの木下地をカットする際に丸鋸の刃がキックバックし裂傷した。
- インパクトを使用中、トリガーに触れてしまい、指を裂傷した。
- ボードを乗り越える際、ボード上の金具に大腿部を引っ掛け、裂傷した。
- 大引きをまたぐ際、釘打機と足が接触し、反動で足に釘が刺さった。
- カッターナイフを使用し、押縁の長さ調整をしていた。カッターナイフが滑り膝に刺さった。
- 射出口が土台に接触し、その反動でトリガーを引いた。釘を足に誤射し、刺さった。
- 壁に立てかけていたボードが5枚倒れた。ボードを支えきれず後ろ向きに転倒した。内壁に後頭部をぶつけた。
- カッターナイフを使用し、クロスの出隅カバーの長さを調整していた。誤って手の甲を切傷した。
- カッターを使用し、パッケージを開封していた。刃が滑り、指を裂傷した。
- スライド丸のこの鋸刃に接触して左手人差し指と中指を裂傷。
- 丸ノコを使用中に部材が飛び、ノコ刃が左手に接触し中指を裂傷した。
- 軒天作業時、電動かなで下地を調整中、刃に接触し人差し指を裂傷した。
- 埋設配管をグラインダーで切断中に誤って左手首に接触して裂傷した。
- 釘打ち機の先端と膝が接触した際にトリガーを引き誤射、右膝を裂傷した。
- 桟木を丸ノコで切断中、キックバックして右膝上を裂傷した。
- モルタルミキサー使用中、羽根金具と人差し指が接触し爪が剥がれた。
- 壁ボード受材を釘打ち機で取付中に右手親指を誤射した。
- 胴縁施工中に、足場と壁の間をすり抜けようとした際に右足に誤射。
- 下地施工中に N50 釘が跳ね返り左目にあたり出血。
- 丸ノコで材料を切ろうとした時に、誤って指の第一関節を切断。
- 垂木を固定した後、トリガーに指を掛けたまま移動し左手の人差し指と親指間を誤射。
- あて木を加工中、丸鋸で左手人差し指付け根を裂傷。
- 外部基礎コート仕上げ塗装中、換気フードに頭部を強打し切創。
- 玄翁が欠け鉄片が飛び、軍手を貫通し右手人差し指に刺さり刺傷。
- 石膏ボード貼り作業中、カッターにて左中指を切創。
- 釘打機玉詰まり修理後ロックを外したらトリガー反応し腿に刺さる。
- 丸鋸作業中、剛床の圧力で丸鋸をはじかれ添えていた手の指を切る。
- 合板を釘打ち機で作業中、誤って自分の足に釘を打ち付けた。
- 屋根野地板施工中に釘打機で左手中指を誤射。
- 連結くぎ打ち機による刺傷。
- エアネイラにて下地の固定中、ワイヤー連結の釘が、打った時に飛んできて負傷した。
- 石膏ボード切断中に、石膏ボードを固定していた左手の手袋が丸鋸に巻き込まれ左手小指の先端を切創。
- ディスクグラインダーでブロックカット中、足を滑らせ持っていたグラインダーの刃が左手にあたり裂傷。
- 下階から穴あけをしている穴の木屑を、上階から取ろうとしてドリルに人差し指が巻き込まれた。
- 梁の仕口内に左手親指を挟んでしまい第1関節上の一部を欠損した。

- 移動中に釘打ち機のトリガーを引いていた為、左手甲に誤射した。
- ホースを無理に引っ張り釘打ちしようとしたところ、押さえていた左手中指に誤射した。
- 釘留めする木下地を抑える手を釘打ち付近に置いてしまい、誤射した。
- 木材を支えていた方の手に誤って鑿の刃があたり挫創する怪我を負った。
- 外部パネルの釘打ち時に誤って CN50 釘を自分の左手親指付け根部に誤射。

災害分類＜車両系建設機械＞の発生状況

- ユニックにて養生鉄板を引き上げる際、フックが外れ右足甲に落下。
- 地盤改良中、建柱車の荷台に乗り吊り荷（ホース）を支えている時、旋回が開始され、旋回台とフラットバーの間に足がはさまれる。
- 良質土を排土中、攪拌羽のアタッチメントが外れ右足脛に接触し打撲した。
- 結束機の中で結束線が絡まり解いている最中指が本体の中で固定。
- 地盤改良機ロッド降下中に先端のケーシングが外れそうになり、とっさに手を出して挟まれてしまった。
- 吊り荷を支えていた所、オペが旋回し右足内側を創傷。

災害分類＜激突＞の発生状況

- 脚立上で建具吊込み中、足を下ろしたところの異物に足首激突し骨折。
- 遣り方の鋼管杭を支柱打ち込みハンマーを使用して打ち込みを行っていた。両手で支柱打ち込みハンマーを持ち、身体全体の力を使って打ち込んでいたところ、手がすべり下に留めていた貫固定金物に手を接触し裂傷。作業用手袋は着用していた。
- くぎ打ち機のトリガーを引いたまま移動し、自分の足に打ち込んだ。

災害分類＜激突され＞の発生状況

- 重機治具を運搬中に落とし、跳ね返った治具にぶつかり負傷した。
- 梁玉掛中、材が崩れ、落下した際の鉄骨梁に接触して負傷した。
- 4P 梁を、クレーン車で吊上げた際にクレーンフックと 4P 梁の中心があっておらず、地切りした際に被災者側へ、吊り荷がふられてしまった。被災者は吊り荷を背にして作業しており、被災者の首に梁が激突してしまった。
- 樹木切断作業中、樹木が倒れたはずみで被災者に激突。
- レッカーの補助フックが作業員の側頭部にヘルメット越しに当たった。
- トラックから資材荷下ろし中に梁が崩れてトラックの下にいた作業員に激突。
- 面材を移動しようとしたが、保持できずに面材に倒された。
- 資材をレッカーで荷揚げしていたが、荷が崩れて落下し「頭部に接触」。

災害分類＜飛来落下＞の発生状況

- 床フローリング墨打ちの際、墨糸先端のカルコが外れ左目に刺さる。
- 建方工が3階床上で作業中、後方上空で旋回中の外壁の吊り金具のワイヤーが破断し落下したシェルテック外壁が腰袋に当たりそれに伴い転倒した。
- 瓦揚機解体作業中、連結部が外れ、上部スライダーが落ちてきた。
- 型枠解体中、角パイプを上階から下階に手渡ししたが、滑って落とした。
- 屋根パネル据付準備作業時、足場からの墜転落。
- 据付工事中、1階ユニットの天井を踏み抜き墜落。
- 据付工事中、平屋妻壁の足場作業床より転落。
- 外壁合板の仮止め中、圧縮材に弾かれた釘が左目を直撃した。
- 小屋組み時、垂木の軒先側を釘打ち機で固定する作業中に連結ワイヤーが目刺さった。保護メガネを使用しておらず眼球破裂。
- 1階から2階へ合板を受け渡し中に合板が落下し、激突。
- 釘打ち機を誤射し、手を刺傷した。
- 固定されたステーブルを外す際、抜けたステーブルが目当たり、負傷した。
- 足場解体時に部材が落下し、下にいた職人の目の下に手摺の爪が激突。
- 和室と洋室境の壁の既成欄間ガラスの取り外し中にガラスが落下して受け止めようとした。
- 建方中大屋根垂木施工中バランスを崩し1階床まで転落落下。幸い左半身の打撲のみで済みました。

災害分類＜転倒＞の発生状況

- 定期点検時に玄関ステップから地面に降りた際に右足を捻り骨折。
- 清掃時に掃除機のホースを踏み転倒し右足首を骨折。
- 足場組立時にアンカーに躓き転倒し、右手甲を基礎打ち付け骨折。
- 塗装工事中、雨水桝と土間コンクリートの段差で右足を捻り骨折。
- 大工工事中において室内階段を移動中に階段養生材がずれて転倒。
- シーリング工事中に鉄板上を歩行した際、積雪に滑って転倒し頬を骨折。
- 足場単管を運搬中、段差につまづき転倒し手をついた際に裂傷。
- 基礎グリッド内客土搬入作業中、通路の仮床が破損して転倒。
- 場内移動中、床に置いてあった木材の上に乗った時に木材が崩れ、転倒し右手を床につき肩の腱が切れた。
- 解体作業を終えて建設作業機械(バックホウ)から降りる際、建設作業機械(バックホウ)キャタと排土板の間でつまづき右膝を強打した。
- 敷地内を移動中、段差約 45 cmの花壇に足を踏み入れたところ、バランスを崩し転倒。転倒した際、太腿上部を花壇石積にぶつけヒビが入った。
- 柱の耐火ケイカル板施工の際に、脚立最下段を踏み外し足を捻った。
- 脚立作業にて2階の排水横引管を施工中に、脚立から降りる際に足元に置いてあった副産物の入った袋に右足を乗せてバランスを崩し足元の配管の上に乗ってしまい転倒した。
- 高さ 10 センチの間仕切り基礎をまたごうとしたが、またぎきれず、基礎に踵が引っ掛かり捻って骨折した。
- 吹き抜け部で開口部仮床を解体し盛替えを行っていた時に、合板の端を踏んでしまいバランスを崩し鋼管の上で胸部を強打した。
- 石膏ボード搬入中に床開口部に足を落とし、持っていたボードが頭部に当たりヘルメットで右眉を切創。
- 大工が4尺脚立を2台使って天井埋込カーテンレールの墨だし作業中、1台目から2台目の脚立に移動した際に脚立が滑って動いてしまい床に着地時に右足首を捻った。
- 基礎工事職方が型枠上を移動している途中で右足を型枠内に踏み外して転倒した。
- 電気工が脚立昇降中、脚立が開ききっていない状況に気付かず脚立二段目まで上がった際に脚立が動きバランスを崩し後方に転倒。
- 内部土間上を移動している際、間仕切基礎のダウン部を跨ぎきれず右足を挫いた。
- 外構職が材料を運搬中滑って転倒した。
- 下地材間配り中、地面の配筋に躓き転倒。
- 資材運搬中、足を滑らせしりもちをついた。
- 仮設材の積み込み中トラック荷台の昇降中に転倒し右足骨折。
- 玄関ポーチ前の養生合板歩行時、足元がぐらつき転倒。
- 階段幕板下地の作業中、エアホースに足が絡み転倒。
- 床下の水抜き作業中、浴室土間に降りた際に配管の上端に足を着き受傷。
- 照明器具交換後に脚立から降りた後にめまいが生じ、後方に倒れ、後頭部を裂傷。
- 脚立の天端で作業した際、バランスを崩し転倒。
- 建て方荷揚げ作業中構造材を落とし現場作業員の頭を強打。
- 足場上で作業中、手摺が無い部分にて踏み外し転落。
- 内部階段を上る際、階段が未固定で滑り落ち転落。
- 移動中転倒。
- 室内階段から2階へ設備機器を搬入している際、階段で足を滑らせ転倒。
- 釘打ち機の手返り。
- 水道先行配管の掘削箇所にて足元のバランスを崩した。転倒し、足首を捻挫した。
- 不注意により転倒した。アンカーボルトに接触し、大腿部を切傷した。
- 木端を踏んだ際、足首を捻り、骨折した。
- 防草シートに足が引っ掛かり転倒し、アキレス腱を断裂した。
- 建物から足場に移動した際、足を捻り、靱帯を損傷した。
- 点検口の段差を見落とし、転倒した。指を骨折した。
- PC 基礎の調整中に基礎が倒れ右足の指を挟み骨折した。
- バケツの水を運搬中にバランスを崩し転倒、左膝を打ち左膝蓋骨を骨折した。
- 倒れてきたコラム(集成柱巾 560mm)を支えきれず転倒し仙骨を骨折した。
- ぬかるみを滑り転倒、エコワンフレーム縁を掴み右手を裂傷した。
- 両手に桝を持って間仕切り基礎を跨ぎ転倒、腰・臀部打撲。
- 石膏ボードを搬入していた際、玄関ポーチで転倒した。転倒した際持っていたボードと、地面(コンクリート)に指を挟んだ。

- コーナービートの下部が浮いていたので、しゃがんで圧着しようとしたところ、右足を滑らせて廊下まで転倒。
- 残材回収を終え玄関ポーチを降りる際、玄関ポーチに足を滑らせ転倒。
- 材料を運んでいる際に、排水管の固定ボルトが足に引っかかり、転倒。
- 石膏ボードから降りる際バランス崩し転倒し手首を骨折。
- スラブ配筋上を移動中、バランス崩し転倒。鼻骨骨折、右手甲・ひじ裂傷。
- 帰社後、会社敷地内駐車場から歩いて事務所までの通路で転倒。
- 玄関ポーチ1段目を上げる際に滑って転倒。左手ついた反動で骨折。
- 土台上で足を滑らせ転倒。
- 外構フェンス（ハイグリッド）移動中転倒。
- 室内間仕切壁造作工事中に意識を失い転倒。
- 照明器配達員が納材後玄関から車に戻る際、砂利の斜路で足を滑らせ後方に転倒。後頭部をコンクリートの角で負傷。
- 足場へ材料と道具を置く際、材料をまたいで降りようとしたとき、小さな材料に乗ってしまいバランスを崩して転倒。
- 材木の台木につまづき転倒した。
- 足元の木材に躓き転倒した。
- 右足で延長コードを踏み、滑って足がもつれたまま、ガードフェンス支柱に左側首頸椎を強打した。
- 足元の突起物（設備配管）を躓き転倒「両手で道具類を抱え、足元見えず」。
- 脚立をまたいだ際に、脚立がずれ脚立と共に転倒。
- 作業場内での転倒。

災害分類＜熱中症＞の発生状況

- 足場工事中、熱中症により全身に痙攣を発症。
- 基礎コンクリートの打設工事中に熱中症を発症。
- 解体工事中熱中症にて意識を失い、転倒した際に頸椎を骨折。
- 防湿コンクリート打設の金鋺仕上中、気分が悪くなる。
- 屋根下地検査中に全身が攣り救急搬送。
- 屋外配管埋設工事中、15時過ぎに手がしびれ始めたため、車中でエアコンをかけ休憩していたが、改善に至らなかったため、16時半ごろ救急車にて搬送。30分おきにスポーツドリンク500?摂取していた。
- 8:30頃から下屋根の瓦葺き作業を行っていた。15時ごろ別現場に移動のため作業を終え休憩していたところ、吐き気をもよおしたため救急搬送。熱中症の疑いと診断を受けた。
- 8～10時に作業後、現場を移動して昼食を取らずに12時頃から小屋裏配管作業を開始。15～20分作業したところで暑さに我慢できず作業を中断して休憩したところ、徐々に具合が悪くなり大量の発汗、息苦しさ、吐き気を感じ救急車要請。
- 体調不良を感じながらも外壁タイル貼り施工をしていた。水分・塩分は定期的に摂取していたが、1時間に1回の休憩は実施しておらず、体調不良を感じ15時ごろ作業中止。翌日になっても体調が回復しなかったため病院を受診。
- 朝から作業を開始し、1時間に1回休憩しながら、掘削作業を行っていた。昼食を取り午後の作業を開始して14時頃に足がつる症状が出たため作業を中断し事務所に戻り休憩した。1時間たっても改善しなかったため救急車にて搬送。水分摂取と身体冷却が不足していた。
- 建方工が帰宅途中で体調が悪くなり休んだが回復せず。
- 屋根上で野地板張り作業途中に休憩しその後体調が悪くなり嘔吐、足の痙攣、頭痛を訴えた。
- 大工職の顔が赤かったため職長が水分補給と休憩をとらせたが体調回復せず一旦帰宅。帰宅後家族と病院へ行き点滴を受けた。
- 外構工事現場において植栽工事をしている最中に熱中症を発症した。
- 片付け、清掃中に具合が悪くなり1時間ほど休憩をしたが、しびれがあったため危険を感じ救急車を呼んで病院に搬送。
- 水道配管工が17時に現場退場、18時に帰宅、20時頃に手足のしびれと吐き気があり、熱中症の疑いがあったため、救急車を呼んで病院に向かい熱中症と診断された。
- 屋根工が屋根上にて屋根材を施工中、体調が悪くなり嘔吐した為帰宅したが、体調が戻らず病院へ行き、熱中症と診断を受けた。
- 大工職が石膏ボード張り施工中、体調の異変（だるさ）を感じたため休憩したが、休憩後も体調が回復しないため帰宅。帰宅後も状況が変わらないため病院へ受診。熱中症による血圧低下と診断。
- 基礎工が片付け作業で基礎の型枠をトラックから下ろしている最中に体調が悪くなった。

- 25 -

- 熱中症を発症した。
- 熱中症を発症した。
- 熱中症を発症した。
- 熱中症を発症した。
- 作業後の片付け中、両手足に痙攣をおこし病院へ搬送。
- 作業中に体調不良を感じ病院を受診、脱水による熱中症と診断。
- 屋根のコロニアルを運搬中、指先が攣り病院を受診（熱中症）。
- 水分補給後、体調不良により腹痛・嘔吐の為、救急搬送（熱中症）。
- 作業中に手が攣り嘔吐の症状があった為、救急搬送（熱中症）。
- 足場のメッシュシートを貼付中、体調不良を感じ病院を受診（熱中症）。
- 作業翌日に倦怠感と熱が身体にこもり病院を受診（熱中症）。
- 体調不良により救急搬送、点滴処置後に回復（熱中症）。
- 休憩後、立ち眩みと吐き気があり病院に搬送（熱中症）。
- 作業中体調くずし休憩をとりながら作業。帰宅途中の車内で痙攣。
- 先行足場巾木取り付け作業中、気分がすぐれなくなり救急搬送。
- 熱中症。
- 体調不良で休憩したが、回復せず全身の痺れが生じたので救急車で病院に向かった。
- 地上で足場材の運搬中、吐き気がして意識が朦朧となったため救急搬送。

災害分類＜その他＞の発生状況

- 1 階玄関横に発電機を設置し、2 階工事中に一酸化炭素中毒により意識を喪失。
- ユニット据付工事中に左手をユニット－基礎間に挟まれ。
- 敷き鉄板を玉掛中、足場建地と鉄板に手を挟み、骨折裂傷。
- 休憩中に搬入材に寄りかかり休んでいたところ、荷崩れして下敷になった。
- 足場解体中、近くの蜂の巣から出てきた蜂に首等を数か所刺された。
- 特注のフロア材（総重量 160 kg）の荷受け時、運搬中に腰を圧迫骨折。
- 屋根上で、棟部分のコーキング作業中に、熱い瓦に膝をあてての作業で、5 mm 程の低温火傷による水ぶくれが生じた。
- ボードの荷揚げ作業（1 階から 2 階へ受け渡し）を 1 時間程度続けて行っていた。付近に部材が仮置きしてあり、それを避けながらの複雑な体勢で受け渡しをしたところ、肩のあたりを痛めた。
- フロア張りのためボード 15 枚を土間へ立てかけていた。重みでボードがしなっていたことが気になり背中へ棧を入れるためにボードを起そうとした際、倒れ掛かり支えきれずにボードとともに転倒。向かい側に部材があったため押しつぶされることはなかったが、耳を裂傷した。
- ポンプ車左前アウトリガーが沈下しポンプ車が傾いた影響で、基礎内部にいた被災者がポンプ車ブーム先端と基礎型枠に挟まれ腰を強打した。
- 荷揚げ屋が 2 階～3 階の階段室中間でボード 4 枚を背負って荷揚げし、壁に立て掛けようとした時、既に壁に立て掛けてあった約 19 枚のボードが反動で倒れ込み、被災者も同時に前方に倒れ込む。倒れこんだ際に両腕が階段ささらとボードに挟まれた。
- 2 人作業で擁壁に排水用のコア空けをしていた。1 人は水路側から工具使用、被災者は敷地内側で補助作業。ボルトの締め付けをするために、被災者の背中側にあるスパナを取ろうと上半身を捻ったところ、膝に負荷がかかり脱臼してしまった。
- 外装職方が外壁材にホールソーにて孔あけ作業中、電気ドリル刃が外壁に引っ掛かり反動で電気ドリルを持っていた右手を捻った。
- 工事責任者が建物内でひとりで断熱材の運搬作業で腰を痛めた。
- 建方（ALC）職が 3 階バルコニーで床 ALC 材を敷き込み作業中に腰を痛めた。
- 外構職が掘削時に埋設されていた石を手で一輪車へ載せようとした際、石と一輪車荷台の間に左手中指を挟んだ。
- メタル材開口加工中、ハンドドリルを使用中ロックしてしまいグリップを支えていた左手がドリルから離れ、右手で押さえようとしたがドリルの回転の影響で右手をひねり薬指を骨折する。
- 足元にある木材を移動させようと木材を持ったところ左手薬指にとげが刺さった。
- 木造 2 階建て解体完了後の現場でバックホーオペが既存杭を引き抜く作業中、作業員が 2.5 m 掘削した掘削穴に降り土砂が崩れて脇下まで埋まった。
- 電気工が洗面所内の太陽光パワコン結線作業中に、パワコン内の配線を 1 本切断しようとした際に別の配線にペンチが接触したことによりショートし左人差し指に火花が接触して火傷した。
- 建方工がモルタルミキサーでモルタルを練る作業中、本体から異音がしたと同時にミキサー安全カバーが

- 一瞬動いた為、反射的に抑えようとしようとしたところ、カバーと共に左手が巻き込まれた。
- 研削砥石でピン頃切断中、キックバックした。
 - 屋根瓦の下地取付作業中、インパクトドライバーを滑らせ左手を切創。
 - 岩盤積み込み中、ダンプあおりに手指が挟まれ受傷。
 - 地盤補強工事作業中にフックと玉掛用ワイヤーに指が挟まり受傷。
 - 石膏ボード移動中にボードが倒れ、左足太ももがボードの下敷きとなった。
 - 建て方工事中、釘抜き作業で転倒し腰袋に入っていた鉛筆が背中に刺さった。
 - 仮設電気の遅れ（東電）のため、発電機を使用していたが、エンジン音を気にして玄関内に移動したため、室内作業中に一酸化炭素中毒となった。（親大工）。
 - 仮設電気の遅れ（東電）のため、発電機を使用していたが、エンジン音を気にして玄関内に移動したため、室内作業中に一酸化炭素中毒となった。（息子大工）。
 - 太陽光発電用配線を屋根に出すため小屋裏で狭いところに体を押しつけながら作業し、あばら骨を骨折。
 - 立て掛けていた石膏ボードが倒れてきて作業台と石膏ボードに挟まれ骨折等無かったが大事をとって3日間休養した。
 - 屋根への資材搬入時に荷揚げ機とレールに指が挟まれた。
 - 梁を上げる際に、梁と脚立の間に人差し指が挟まり骨折。
 - 壁パネル設置時、指が巻き込まれ、負傷した。
 - インパクトドライバーを打ち損じ、指を打ち抜き骨折した。
 - 脚立から降りる際、指を骨折した。
 - 外壁塗装工事中、資材の受け渡しの際、手の甲にぶつかり打撲した。
 - 板金を折り曲げる際、左太ももに接触し負傷した。
 - 建方中、梁を仮置きする際に梁と建地に指を挟み左手中指を骨折した。
 - 壁ボードを1枚持ち上げた際、その他17枚が倒れ右足が挟まり負傷した。
 - ガスメーター取付工事中にガスを止めずに作業をしたところ、ドリルでガス管の融着部分を研磨した際に
出た火花でガスが発火し火傷。
 - 廃材の軽天ドアを下した時、腰に負担をかけた。
 - 柱状の製品を持ち上げた際、台木の上で転がり右手小指が挟まった。
 - 壁板製品と台木の間に左手人差し指を挟んで裂傷。
 - 3尺脚立から降りる際、床との段差部分で捻って着いた。
 - 土台敷作業中に足が攣り、帰宅途中に両足、全身が攣った。
 - 作業後の片付け中に石を踏み足首を捻った。
 - 金物締め作業中の者の頭部に間柱が倒れ頭部切傷（ヘルメット未着用）。
 - 木材を誤って踏み、木材が滑りバランス崩し足首捻った。
 - 立てかけていた石膏ボードが倒れてきた。
 - 車両から荷物を降ろすとき地面のくぼ地に足を取られ、お尻から落ち、お尻を強打した。
 - 仮積みした垂木材の横を移動した際に LVL のささくれがふくらはぎに刺さる。

以上

会 社 名

ご担当者名

T E L

貴社の請負住宅および建売住宅のうち、3階建以下の戸建住宅・集合住宅工事において発生した災害（通勤災害を除く）で休業1日以上のものについて、ご報告ください。

貴社が、以下A～Fの団体に複数加入されている場合、各々の団体から当調査用紙が配布されますが、報告書は工法別に集計して各団体へ返送して下さい。

ご注意：①同じ報告書を複数団体へ提出しないようにお願いいたします。

（工法別の集計報告書を、各々該当する団体に提出することはかまいません。）

②労働災害発生件数が0件でも完工棟数等をご記入のうえ、報告書をご提出下さい

（貴社が加入されている団体の労災発生率を調査するために、ご協力をお願いいたします。）

③増改築・リフォーム工事を関連会社等別会社（A～F 団体未加入）が元請として請負っている場合は、それを計上する必要ありません。

以下1～4の各質問にご回答ください。

1. 貴社加入団体（複数加入なら該当団体全てに○印を）

A. プレハブ建築協会 B. 日本木造住宅産業協会 C. 日本ツーバイフォー建築協会
D. 全国住宅産業協会 E. 輸入住宅産業協会 F. JBN・全国工務店協会

2. 当報告書の提出先団体（該当団体1つに○印を：同じ報告書を複数団体へ提出しないで下さい。）

A. プレハブ建築協会 B. 日本木造住宅産業協会 C. 日本ツーバイフォー建築協会
D. 全国住宅産業協会 E. 輸入住宅産業協会 F. JBN・全国工務店協会

3. まとめ（工法区分ごとに集計していれば工法ごとに記入して下さい。該当工法を○で囲んで下さい。）

工法記号（イ・ロ・ハ・ニ・ホ・ヘ・ト・チ）

イ. 木造在来軸組 ロ. ツーバイフォー ハ. 木質プレハブ ニ. 鉄骨在来
ホ. 鉄骨プレハブ ヘ. コンクリート在来 ト. コンクリートプレハブ チ. その他（混構造等）

貴社の令和7年1月～令和7年12月)の工事棟数
(工法別)

ホ	イ	新築工事	
・	・	年間 完工棟数	棟
エ	ロ	増改築・リフォーム	
・	・	年間 完了件数	件
ト	ハ	解体工事	
・	・	年間 完了件数	件
チ	ニ		

貴社の令和7年1月～令和7年12月)の工事棟数
(工法別)

ホ	イ	新築工事	
・	・	年間 完工棟数	棟
エ	ロ	増改築・リフォーム	
・	・	年間 完了件数	件
ト	ハ	解体工事	
・	・	年間 完了件数	件
チ	ニ		

貴社の令和7年1月～令和7年12月の
労働災害発生件数(上表工法分)

労働災害 年間 総発生件数 (休業日数 1日以上)	件
---------------------------------	---

貴社の令和7年1月～令和7年12月の
労働災害発生件数(上表工法分)

労働災害 年間 総発生件数 (休業日数 1日以上)	件
---------------------------------	---

- ・ 労働災害年間発生件数無しの時は0件とご記入ください。
- ・ 集合住宅は戸数ではなく棟数にてご記入ください。

4. 労働災害年間総発生件数内訳（休業1日以上）

- * 別紙の労働災害年間総発生件数内訳(休業1日以上)報告書に記入して下さい。用紙が足りない場合はコピーしてご使用下さい。
- * 工法ごとに集計している場合は、1工法1用紙にご記入下さい。
- * 別添の「労働災害分類番号一覧表」ならびに「報告用紙N o 2」に記載した記入例を参照してご記入ください。

以 上

令和7年1月～令和7年12月低層住宅労働災害発生報告書(戸建住宅・低層集合住宅 No.2
労働災害年間総発生件数内訳(休業1日以上)報告書

会社名

当用紙を工法区分ごとに集計している時は以下の工法区分の一つに○を付けて下さい。

イ. 木造在来軸組 ロ. ツーバイフォー ハ. 木質プレハブ ニ. 鉄骨在来
ホ. 鉄骨プレハブ ヘ. コンクリート在来 ト. コンクリートプレハブ チ. その他(混構造等)

※記入欄が足りない場合は、同じ書式で別紙にご記入下さい。

No	災害発生日時			被災者 区分	年 令	性 別	作業 分類	職種 分類	災害 分類	工法 区分	工事 種別	休 業 日 数 別					
	月・日	曜日	時刻									1～3	4～7	8～30	31～90	91～	死亡
1																	
	災害分類: 90. その他 記入欄			作業分類: 13. その他 記入欄			職種分類: 26. その他 記入欄			墜転落: 19. その他 記入欄			切れ・こすれ: 29. その他 記入欄				
2																	
	災害分類: 90. その他 記入欄			作業分類: 13. その他 記入欄			職種分類: 26. その他 記入欄			墜転落: 19. その他 記入欄			切れ・こすれ: 29. その他 記入欄				
3																	
	災害分類: 90. その他 記入欄			作業分類: 13. その他 記入欄			職種分類: 26. その他 記入欄			墜転落: 19. その他 記入欄			切れ・こすれ: 29. その他 記入欄				
4																	
	災害分類: 90. その他 記入欄			作業分類: 13. その他 記入欄			職種分類: 26. その他 記入欄			墜転落: 19. その他 記入欄			切れ・こすれ: 29. その他 記入欄				
5																	
	災害分類: 90. その他 記入欄			作業分類: 13. その他 記入欄			職種分類: 26. その他 記入欄			墜転落: 19. その他 記入欄			切れ・こすれ: 29. その他 記入欄				

※記入例

No	災害発生日時			被災者 区分	年 令	性 別	作業 分類	職種 分類	災害 分類	工法 区分	工事 種別	休 業 日 数 別					
	月・日	曜日	時刻									1～3	4～7	8～30	31～90	91～	死亡
記入 例 ①	6・19	月	16:00	1	45	1	6	4	13	イ	2		○				
	災害分類: 90. その他 記入欄			作業分類: 13. その他 記入欄			職種分類: 26. その他 記入欄			墜転落: 19. その他 記入欄			切れ・こすれ: 29. その他 記入欄				
記入 例 ②	7・25	火	10:30	1	32	1	1	1	80	ハ	3		○				
	災害分類: 90. その他 記入欄 プライヤーで指を潰す。			作業分類: 13. その他 記入欄			職種分類: 26. その他 記入欄			墜転落: 19. その他 記入欄			切れ・こすれ: 29. その他 記入欄				

令和7年1月～令和7年12月分調査 労働災害分類番号一覧表

被災者区分	1. 労働者（日本人）	2. 労働者（外国人）	3. 中小事業主	4. 一人親方	性別	1. 男	2. 女
-------	-------------	-------------	----------	---------	----	------	------

作業分類	1. 解体	2. 基礎	3. 足場	4. 建方	5. 屋根	6. 外部造作	7. 内部造作
	8. 外装	9. 内装	10. 設備	11. 外構	12. 加工場	13. その他(作業を記入)	

職種分類	1. 解体	2. トビ足場	3. 基礎		4. 大工	5. 防蟻	6. 板金	7. スレート
	8. 瓦	9. 防水	10. コーキング		11. 左官	12. サイディング		13. タイル
	14. 塗装	15. クロス	16. 建具		17. タタミ	18. 電気	19. 給排水	20. ガス
	21. 空調	22. 造園	23. 現場監督		24. 納材	25. 産廃	26. その他(職種を記入)	

災害分類 (型・起因)	墜転落	11. 屋根	12. 梁		13. 足場	14. 開口部	15. ハシゴ	16. 脚立	
		17. 脚立足場	18. 車荷台		19. その他(記入してください)				
	切れ・こすれ	21. 丸ノコ	22. 釘打機		23. 金槌	24. ノミ	25. 木材加工機	26. バール	
		27. カッター	28. グラインダー			29. その他(記入してください)			
	車両系建設機械	30. クレーン	31. ドラグショベル(ユンボ)			32. ハンドガイドローラー		33. ランマー	
		34. ユニツク車	35. トラック		36. その他(機械名を記入してください)				
	40. 激突								
	50. 激突され								
	60. 飛来落下								
	70. 転倒								
80. 熱中症									
90. その他(型・起因を記入してください。表現は用語等を気にせずに記入して下さってかまいません。)									

工法区分	イ. 木造在来軸組	ロ. ツーバイフォー	ハ. 木質プレハブ	ニ. 鉄骨在来
	ホ. 鉄骨プレハブ	ヘ. コンクリート在来	ト. コンクリートプレハブ	チ. その他(混構造等)

*型式適合認定工法以外は、イ. 木造在来軸組 ロ・ツーバイフォー ニ. 鉄骨在来 ヘ. コンクリート在来 チ. その他(混構造等)の中から選択してください。

工事種別	1. 新 築	2. 増改築・リフォーム	3. 解 体
------	--------	--------------	--------